

# The Bulletin of the Faculty of Global Communications Cosmos



同志社大学グローバル・コミュニケーション学部機関誌

No.8

2019年3月

# cosmos ['kɒzmɒs]

—①よく秩序づけられた宇宙。思考体系。

②キク科の観葉植物。

……花言葉 「調和」

# cosmo- ['kɒzməʊ]

—（接頭語） 世界や宇宙に関する。

---

私は一つの可能性です。

私たちは無限の可能性です。

限り無く広がる世界の中で

調和をもたらす存在に成らんことを願い

これを題名とします。

---

## References

Oxford Dictionaries. (<http://oxforddictionaries.com/definition/cosmos>)

表紙の地球儀の写真は、左上の GC 学部入学から右下の卒業までを表しています。

流 希 望 海 個 自 会

忙

界 実

道 進

動 漢

未

樂

車 安

# Cosmos

No.8



笑 努 空

輝 友

— これらの漢字は、GCの学生たちが、  
グローバル・コミュニケーションを  
漢字一文字で表したものです—

# はじめに

この度はグローバル・コミュニケーション学部発行の学部機関誌 *Cosmos* 第8号を手にとっていただき、誠にありがとうございます。*Cosmos* は、多くの方々に本学部を知っていただくことと学部内での情報発信を目的とし、学生が主体となって本学部創設以来、毎年発行されています。

グローバル・コミュニケーション学部は2011年に創設されて以来、現代国際社会の様々なフィールドで必要とされている「対話力」を養成しています。そのため一年間の留学や全コース合同の Seminar Project をはじめとしたカリキュラムがあります。言語能力が優れているだけでは本当のコミュニケーションができるとは言えません。対話する相手の文化的背景を理解し、どのように話を進められればうまく協力や交渉ができるのかを考えることにより、真のコミュニケーションは成し遂げられます。その能力こそが本学部が養成してきた「対話力」です。この「対話力」養成の方法は一つではありません。人が一人ひとり違うように、この対話力の在り方も無限です。また、それを追求し続ける本学部の学生は向上心にあふれ、無限の可能性を秘めています。そのような環境の影響もあり、「つねに今よりも良いものを」という方針が編集活動を支え続けたことは間違いありません。この感謝すべき学部を多くの方々に知ってもらい、読者の人生や価値観に何らかの影響を及ぼすきっかけになりたいという想いが私達の原動力でした。

さて、今回の第8号は本学部と読者の皆様との「繋がり」をテーマとしています。これまで *Cosmos* は様々な読者の目に触れてきました。そこで私たち第8号編集委員は、*Cosmos* が本学部と読者との関わりを築く第一歩を担っているように感じました。これからも *Cosmos* が読者の皆様と本学部の間を繋ぐ存在でありたいと思い、「繋がり」をテーマとして取り上げました。留学のトピックでは「本学部」と「世界」を繋ぎ、OB・OGのインタビューのトピックであれば本学部の「今」と「過去」を繋ぐというように本誌の各トピックで本学部には多くの「繋がり」があることを認識していただけたと思います。

最後に、本誌の編集過程に携わってくださった全ての皆様に心から感謝いたします。まず、私たちの取材に協力してくれた在學生と忙しい中インタビューに協力してくださった先輩方、OB・OGの方々。次に、私たちにこのような貴重な機会をくださり、作成にずっと協力していただいた本学部の先生と事務室の職員の方々。そして、未熟な私と一緒に最後まで尽力してくれた第8号編集委員のみんな。1年間、様々な「繋がり」を本当にありがとうございました。

それでは、最後までお楽しみください。

編集委員長（英語コース3年生） 堺 遼哉

表紙デザイン 竹本 名歩

内表紙デザイン 谷口 綾・堺 遼哉・竹本 名歩

## *Cosmos* 第8号

---

### 目次

Welcome to GC .....	4
STUDY ABROAD 特集 .....	11
GC 学部ゼミ紹介 .....	20
Seminar Project 大紹介 .....	30
GC 学部と教職 .....	37
GC 学部の Activity .....	39
GC 学部が誇る先生の原点 .....	42
1 期生・2 期生に聞く GC 学部 .....	45
2018 年度卒業研究テーマ .....	50

# Welcome to GC!

Welcome to GC!ここでは、グローバル・コミュニケーション学部（GC 学部）とはどのような学部で、どのような学生がどのような日々を送っているのかを紹介します。およそ100名の学部生のアンケート結果をもとに、パンフレットやホームページにはない、学生目線でのGC 学部を知ることができます。GC 学部との最初の「繋がり」です。

## GC 学部とは?

GC 学部には、英語コース、中国語コース、日本語コースの3コースがあります。英語コースと中国語コースは1年間の留学が必須であることが大きな特色です。一方、日本語コースは留学生のみで構成されていることが特色です。普段はコースごとに異なる授業を履修しますが、Seminar Projectという3コース合同必修科目やGC 学部生専用の自習室などがあるため、各コース間の交流はとても盛んです。様々なバックグラウンドを持つ学生とコミュニケーションを取れることは、いつも良い刺激になっています。

## 英語コース

GC 学部の英語コースには1学年およそ90人の学生が在籍しています。1年生は留学予定大学での学びの準備を中心に実践的な英語力、異文化理解力や論理的思考力を身につけます。2年生の留学では、それらの能力を生かし、日本で学んでいるだけでは得られない貴重な経験を通してグローバル人材への成長を目指します。帰国後の3、4年生では、ゼミを通してこれまで学んできたことを各自の専門分野に結びつけ、より実践的に知識と能力を深めていきます。

肝心の英語能力はどのように成長していくのでしょうか。6期生の留学後のTOEIC®L&Rテストスコアの平均は829点でした。1年生から、グループワークやプレゼンテーションをすべて英語で行う授業もあり、3、4年生になると、それを外国人留学生とともに受講できるまでに成長します。また、本当のグローバル人材になるには、卓越した外国語運用能力だけでなく異文化理解に対する豊かな教養が必要です。そのため、3、4年生では様々な分野での異文化理解を深めていく授業も行われます。

### 英語コースの人気授業紹介!!

#### 1. Communicative Performance

1年生の必修授業では、英語でのディスカッションやプレゼンテーションを中心としたスキルを高めることが狙いです。また、授業でのディスカッションやプレゼンテーションを通して、ロジカルシンキングやクリティカルシンキングのスキルも養うことができます。

この授業で学んだことは極めて実践的であり、留



学先の大学で非常に役立ったという声が多くあります。そのような英語力とコミュニケーション力を同時に鍛えられることが人気の理由です。また、この授業はグループワークが多いので、クラスメイトと仲良くなれることも魅力です。



## 2. Intermediate Seminar

3年生から始まる各自の専門分野を迫及していく授業で、一般的にはゼミと呼ばれています。留学後の新科目であり、目標を持ち、たとえ毎週課題が多くても楽しんで取り組む学生が多く見られます。さらに同じクラスメイトと2年間学ぶので、親密な関係を築いていくことができます。クラスによっては、海外研修に行くこともあり、とてもやりがいを感じます。

## 3. Business English

これは3年生以降に履修することができ、英語を使って国際ビジネス社会で求められる教養や知識を学ぶ授業です。GC学部では卒業後、就職して社会に出る人が多いため、将来のことを見据えて必要とされることを学びたいという意見が多くあります。授業ではマーケティングを体験してみるケーススタディから正しいビジネスメールの書き方まで幅広い内容をディスカッションとプレゼンテーションを通して会得します。実際に海外でのビジネス経験が豊富な先生から英語で学ぶことができ、授業は新しい気づきや学びにあふれています。



### ～英語コースで感じられる「繋がり」～

3年生 堺 遼哉

私は英語コースで世界のいろいろな価値観を持った人とわかり合うことを通して、偏見を抱くことなく物事一つ一つの本質をしっかりと見極める力を得られたと思います。これは、国際社会に存在する様々な価値観を理解して共に協力し合うために最も大切なことだと思えます。卒業後は、この力を活かして人々と協力し合いより良い国際社会を創ることに貢献したいと考えています。

英語コースを一言で表すと？

“Play super hard, Study super hard”

英語コースの学生は何をしてもつねに全力です！自分たちが面白いと思った時の気持ちを大切に、どんな分野においてもそれを追求し続ける気持ちを忘れません！



## 中国語コース

中国語コースの一番の特徴は、少人数のクラスで「中国語」を基礎から学べることです。中国語コースの9割以上の学生が、入学するまで中国語を学習したことがありません。しかし、1年生から4年生まで、10～20人の少人数授業で質の高い授業が展開されるので、卒業までに8割の学生が中国語検定2級または漢語水平考試（HSK）6級を取得します。これは、自分の意思を中国語で流暢に表現することができるレベルに相当します。留学後の大学での授業では、中国語で「中国」や「中国語」に関する専門的な知識を深めるので、実用的な中国語運用能力以外にも中国、世界に対して多角的な視点を培うことができます。

### 中国語コースの人気授業紹介！！

#### 1. 異文化間交渉概論

3年生の秋学期から選択できる授業で、中国と日本との間の異文化間交渉・異文化間交流のうち、とくに政治・外交を中心として、それらを多角的な視点から考察する能力を培う授業です。この授業では、毎回特定のテーマについての小レポートを書きます。そうすることで、異文化間交渉に関して、学習したことを論理的に自分の言葉で表現する力を養えることがこの授業の人気の理由です。



#### 2. 通訳の理論と実践

この授業も3年生の秋学期から受講できます。実際に中国語通訳の現場で活躍している先生から、通訳におけるトレーニングメソッドを学ぶことができますのが特徴です。留学で培った語学力を活かして、実践的な通訳能力を身につけることができます。受講している学生からは、クイックレスポンスやシャドーイングを通じて、とっさに中国語が出るようになったという意見が多く寄せられました。

#### 3. 中国語会話表現

中国語コースでは1年生から留学までの1年半、必修の授業として会話の授業があります。中国語コースの学生のほとんどが、初めて中国語を学習するので、会話クラスが最も大切な授業の一つです。授業は少人数制で、先生との距離が近いので、アットホームな雰囲気です。全員の前でスピーチを行い、またペアワーク等も多いので、中国語を話す機会が多く設けられていることが人気が高い理由です。





## ～中国語コースで感じられる「繋がり」～

3年生 小西 真愛

私自身、入学するまで中国に関して全く知識がありませんでした。特に日中の歴史に関しては、日本国内で学ぶだけでは一方的な見方しかできませんでした。しかし、大学の授業や留学で直接現地での生活を体験できたことを通して、日中の歴史を多方面から見ることができ、自分の言葉で考えを述べるができるようになりました。今後は自分の意見を広く社会に発信することによって、日本と中国を中心とした異文化理解を広められるように努めたいと考えています。

中国語コースを一言で表すと？

### 「好好学习、天天向上」

しっかり勉強して、毎日進歩する。

## 日本語コース

日本語コースの留学生は同志社大学での4年間の勉強を通して、J.TEST 実用日本語検定で準 A 級レベルと BJT ビジネス日本語能力テストで J1レベルの合格を目標にし、卒業までに達成しなければなりません。

また、日本語コースは少人数で構成されているため、留学生と留学生、留学生と先生との間の距離が非常に近いことが特徴です。アットホームな雰囲気にもまれて、高度なコミュニケーション能力を養う場として、またグローバル人材を育成する場として理想的です。

### 日本語コースの人気授業紹介！！

#### 1. ビジネス日本語

日本企業の風土・組織の特徴・雇用の仕組みを理解し、また日本の特殊な就職活動の概要を学習できる授業です。



#### 2. 日本語のバラエティ

「若者言葉」、「インターネットスラング」、「方言」をテーマとして取り上げ、社会言語学の知識に基づいた視点から留学生たちが日本語の多様性とその要因を学習できる授業です。

### 3. 日本語の構造

日本語の音声の仕組みについて学習する授業です。専門的な音声学の知識を理解するために日本語の文を録音し、さらに PC で分析し図式化します。



#### ～日本語コースで感じられる「繋がり」～

3年生 趙 逸倫

私自身は日本語コースに入って専門的な日本語の知識を得ただけではなく、「グローバル日本社会」で必要とされるコミュニケーション能力も習得することができたと思います。日本人の前でなかなか自分の意見を言えなかった私は日本語コースでプレゼンテーション力と論理的思考力を鍛え、積極的に意見を人前でシェアすることができる人に生まれ変わりました。

日本語コースを一言で表すと？

#### 「一期一会」

少人数の留学生クラスだからこそ、このアットホームな雰囲気に感謝！

## 1年生企画

# グローバル・コミュニケーション学部、 グローバル地域文化学部、文学部英文学科の違いつて？

「国際・外国語系学部学科に興味がある！」「同志社大学で学びたい！」

そのように思っている受験生は多いと思います。しかし、一概に国際・外国語系学部学科といっても、たくさんあって迷ってしまいますよね。そこで今回は、同志社大学 GC 学部1年生が、文学部英文学科とグローバル地域文化学部の1年生に学部の特徴を聞いてきました。それぞれを比較しながら GC 学部の特徴を紹介します。(注：内容はあくまでも個人の意見です。)

### □グローバル・コミュニケーション学部

コミュニケーション能力と外国語運用能力を学習する。

1. 日本では数少ない、留学生のみの日本語コースがある。
  - ① 普段から学部内で簡単に国際交流ができる。
  - ② 4年時には、学生がプロジェクトを企画・運営する3コース合同の Seminar Project がある。
2. 英語コースと中国語コースの学生は1年間の留学が必須である。
  - ① 留学先は15大学（英語コース）、3大学（中国語コース）から選択できる。
  - ② 休学なしで、4年間で卒業できる。

### □文学部英文学科

文学部英文学科 1年生 Kさん

英米文学・英米文化、英語学・英語教育を中心に学ぶ。

1. 文学及び言語の研究を通して英米などの文化への深い理解を養う。
  - ① 1・2年時は主に「話す・聞く・書く・読む」の4技能を養成する。
  - ② 3・4年時に文学・言語・文化についての専門性を高めていく。
2. 留学が必須ではない。
  - ① 年間に70～80人の学生が、2週間から1セメスター（学期）の短中期留学を行う。
  - ② 留学を目指す学生に対する留学準備クラスがある。

### □グローバル地域文化学部

グローバル地域文化学部 1年生 Kさん

地域の文化・歴史・課題に関する学際的な知識を身につける。

1. 地域理解に必要とされる外国語習得を目指す。
  - ① 語学は地域を理解するツールとして位置づけられている。
  - ② 二つの外国語の習得を目標とする。
2. 海外研修が必須である。
  - ① 二週間から1セメスター（学期）の短中期が中心である。
  - ② 複数の海外研修に参加することが可能である。



# グローバル・コミュニケーション学部の魅力とは

## 1. アットホームな雰囲気

- ・少人数授業
- ・先生との距離が近い
- ・学部内全員の学生と仲良くなれる
- ・先輩との繋がりが強い
- ・入学当初から先輩が学校生活に関するアドバイスをくれる
- ・留学生との交流が多い
- ・クラス内で発言しやすく、授業が活発である



## 2. 留学必須…4年間のうち1年間は海外に留学（英語コース & 中国語コース）

### 1年生の声



国の背景や異文化の理解といった留学中に役立つ授業が多い



英語で行われる授業が多く、日本に居ながら留学体験ができる



入学当初から留学に向けて高い意識を保てる



先輩との交流から留学生生活を詳しく知ることができ、自分に合った留学先が見つかりやすい



全員が留学という同じ目標に向かって、切磋琢磨できる



#### □最後に1年生から

GC 学部は、勉強量が多く授業についていくには努力が必要ですが、その分充実感があり、実力をつけることができます。  
「将来、グローバル人材になりたい」  
「言語だけでなく、多様な価値観を身につけたい」

そんな受験生のみなさんに GC 学部はぴったりです。

# STUDY ABROAD

## 特集

英語コース・中国語コースでの一大イベントとも呼べるのが、約1年間の留学“STUDY ABROAD”です。英語コースの学生は2年生の春学期から秋学期に、そして中国語コースの学生は2年生の秋学期から3年生の春学期にかけて、日本を離れそれぞれの留学先へと旅立ちます。ここでは、2017年度にSTUDY ABROADを経験した学生たちの留學生活、そして彼らが世界で感じた「繋がり」を紹介します。

### 今回紹介する留学先



#### 他の留学先

##### アメリカ

The University of Utah  
University of Montana  
University of California, Riverside  
Arizona State University

##### カナダ

Acadia University  
Vancouver Island University  
University of Guelph  
Brock University

##### イギリス

University of Sussex

##### オーストラリア

The University of Newcastle

## イギリス University of Southampton



### 伊庭 拓郎

私は、幼いころからサッカーが大好きで、それをきっかけにイギリスの文化に魅了され、イギリスに行くことが夢でした。GC 学部に入る前から留学先の国の一つにイギリスがあることは知っており、入学してからはそれを目標に頑張りました。念願がかなった留学生活は私にとって大切な思い出であり、最高の経験となりました。

University of Southampton にはサッカーチームがあり、メンバーになりたかった私は所属するための3日間のトライアルに参加しました。200人中30人しか合格できない厳しい状況でしたが幸運にもチームに入ることができました。イギリスでサッカーができたことはとても嬉しかったです。それからはさらに授業外での時間を充実させることができ、チームに入ったことでたくさん現地の友人ができました。

イギリスならではの街並みや美しい景色には日々感動しましたし、近隣の国々にあちこち旅行に行けたのもイギリス留学の特権でした。イギリスはシャイな人が多いので、自分から話しかけ行動を起こすことが大事であり、1年を通して「迷ったら、やってみる」姿勢で取り組みました。イギリスで経験した数々の挑戦は、私を大きく成長させてくれたと感じています。

#### 〈後輩へのメッセージ〉

憧れの国イギリスでの1年間の生活は私にたくさんの「繋がり」を与えてくれました。まずは趣味のサッカーを通じた繋がり。イギリスは、サッカーが大好きな国です。サッカーを通して言語の壁を越えて色々な人と繋がることができました。また、旅行から得た「繋がり」もあります。旅行先で現地の人におすすめの場所などを教えてもらうと、より印象深い思い出となりますよね？そのような嬉しい経験を、次は私が還元したいと思い、今はホテルでアルバイトをして海外から来たお客様に日本の魅力を日々伝えています。







### 山本 浩生

アメリカを選んだ理由は、昔住んでいた第二の故郷と感じている国だからでした。カリフォルニアほど住んでいる人のバックグラウンドが多種多様な場所はなく、集団として扱われることなく一人ひとりを個人として対応してくれるところが魅力です。TOEFL ITP<sup>®</sup>テストのスコアによって勉強の流れが異なるのですが、私の場合は1年間を通して大学で授業を受けるフル・アカデミックでした。クラス内に友達はできましたが、特定の学期内だけでの study partner が多かったように思います。ディスカッションの授業やプロジェクトを行う授業では複雑なコミュニケーションをとる場面が多かったこともあり、長く付き合う友達もできました。また中間テストが2回行われる授業があり毎週テストかレポートに追われていました。自分の英語力で一番不足しているのはライティング能力だったので、積極的にレポートが多い授業やエッセイの書き方を教えてくれる授業を選びました。最終学期の国際政治のレポートで平均80点のところ100点を取ることができ、努力が報われてとても嬉しかったことを覚えています。

#### 〈後輩へのメッセージ〉

留学中に私が感じた「繋がり」は大学で仲良くなった中国人留学生との友情です。彼とは政治問題に対する意見を率直にぶつけあうことができました。これは友情があったからこそできたことです。留学は文化の違う人と意見を交わすのにぴったりの機会であり、ぜひみなさんも臆することなく自分の意見を伝えるようにしてください。また留学後にも「繋がり」を感じています。それは留学への興味がある友人や後輩に留学経験を伝えることです。私の留学での「繋がり」を真剣に聞いてくれる人との話も留学経験が築いてくれた「繋がり」だと感じています。そのような様々な「繋がり」をもたらす留学をみなさんも楽しんでみてください。





### 平越 真由

メルボルンには多様な文化が存在し、街中にアートやイベントがあふれています。そんなメルボルンに留学した私たちは、まさに十人十色の経験をしました。

実際に一緒に留学した友人の中には、ボランティア活動に励んだ者もいれば、地元のラジオ番組で活躍したり、大学のスポーツチームに所属したりする者もいました。単に学校で英語を学ぶことに留まらず、それぞれが個性あふれる充実した留学生活を送っていました。大切なことは、これらは待っていて訪れた機会ではないということです。自ら積極的に挑戦したことで、このような素晴らしい体験をすることができました。私にとっての挑戦は、語学学校でのインターンシップでした。主にイベント運営や留学生サポートなど、責任の伴う仕事に携わりました。インターンシップを通して得た経験や、出会った方々はかけがえのない存在です。インターン生になるのは決して簡単なことではなく、インターン生募集がなされた当初は、倍率が高いことに加え、短期留学生の私は応募対象外でした。しかし、インターンシップをしたいという強い思いから、直接自分を売り込みに行き、最終的にインターン生に採用されました。必死に挑戦したことで不可能を可能に変えた経験は、今でも自分自身の大きな強みです。

#### 〈後輩へのメッセージ〉

留学中は、楽しいことだけではなく、自分とは異なる価値観や背景を持つ人たちと出会うことにより、意見が衝突したり辛い思いをしたりすることもありました。そんな時は母からもらった「相手は自分の鏡」という言葉を思い出していました。相手に求めるのではなく、自分から前向きなアクションを起こす。そのように心がけていれば、いつの間にか多くの人と信頼関係を築いていくことができると信じています。





### 和田 尚美

私が留学したニュージーランドのウェリントンには風の街といわれるくらい風が強く、街と自然の調和がかなり美しいところです。気候は穏やかで、夏の夜が涼しかったことを覚えています。街の人たちは優しく、トラブルや事件はあまり耳にしませんでした。

食べ物については、ニュージーランドは多民族国家なので特にこれといった独特な料理はありません。しかし、コーヒーが有名でカフェがたくさんあるので、外食する機会は多くありました。寮ではイベントやパーティーが開催され色々な地域から来ている仲間と活発に交流することができました。

また、問題が起こった時に大学へメールで連絡・質問するとすぐ返事がきます。大学のサポート体制は整っており、災害時の連絡もしっかりとしているという印象を持ちました。

日本の学生との違いを実感したのは、学生の政治に対する姿勢です。「あの党のあの人はこんな風だ」、「いや、そうではない」といった意見の交換が起こることがよくあります。最初はショックでしたが素晴らしいカルチャーショックだと思います。英語の運用能力の向上も重要ですが、このような異文化体験もまた留学することの醍醐味であると思います。

#### 〈後輩へのメッセージ〉

ニュージーランドでの経験は、それまでの私の価値観を大きく変えてくれるものでした。時間にしばられず、日本人のように謙虚で、他人を思いやる心を持つ人たちと出会えたことで、留学前より素直に自分を出せるようになった気がします。日本の忙しい生活に戻っても以前ほどストレスを感じない理由は、ニュージーランドののんびりとしたライフスタイルに触れたからでしょう。当初は候補にすら入れていなかった留学先でしたが、今では「VUWしかなかった」と思っています。そして今後留学していくすべての後輩たちが留学を楽しめるよう、心から応援しています！





### 今村 日和

ウィニペグはトロントやバンクーバーに比べるとあまり知られていない小さな街ですが、人と人との繋がりが強い、とても温かいところです。住んでいる人々のバックグラウンドが多様であることに加えて留学生の数が多く、知り合う人の数と同じだけ多くの文化を体感することができました。食べ物や音楽を通して新しい文化を学び、改めて世界の広さを感じた1年間でした。ホームステイでの生活は、学びにあふれていました。ホストファミリーとのコミュニケーションを通して英語力は大きく伸びたと思いますし、異なる文化と生活様式を通して違いを受け容れることを学び、人間的に成長できたと感じています。

日本語学校や The University of Winnipeg で日本語を教えるボランティアをしたことをはじめ、夏にキャンプ場のキッチンで調理補助をしたり、教会で赤ちゃんのお世話をしたり、地域のお祭りの運営を手伝ったりと、見つけたボランティア活動にはすべて参加しました。現地の人と「繋がる」いい機会になっただけでなく、どれもが本当に大切な思い出です。様々なコミュニティに足を運び、その一員として自分にできることを探してみる。それが、豊かな留学生活を作った鍵だったと思います。

#### 〈後輩へのメッセージ〉

ウィニペグで出会った人たちとの繋がりは、私に素敵な思い出と自信を与えてくれました。1年前には知らなかった街に、お気に入りの場所がたくさんでき、友達が増えていく嬉しさは、かけがえのないものです。今では大好きな場所になったウィニペグで過ごした時間が誇らしく、恋しさが募ります。留学を通して、土地が人を作り、人が土地を作るのだと実感しました。そこに暮らす人を理解したければ、まずはその土地を知ることが重要です。同じ場所でも、そこに住む人と繋がることで見える景色は何倍も美しいものになると思います。







### 川本 里奈

私が北京を留学先に選んだ理由は、主に二つあります。一つ目は、GC 学部の授業で馴染みのある簡体字が大陸で使われているからです。もう一つの理由は、「北京大学」に留学できたことでした。北京大学は、中国屈指の大学で、人口が多い中国で熾烈な競争を勝ち抜いた学生が集まります。そのため、世界各国からも意識が高い優秀な学生が集まります。そのような環境に自分を置くことで、幅広い視野を養えると思い、北京へ留学することを決めました。

北京大学は日本の大学に比べて遥かに大きく、生活する上で必要なスーパーや病院、美容院、娯楽施設までもが大学内に設備され、大学がまるで一つの街のようでした。様々な国の学生と同じ教室で授業を受けますが、学校の授業以外に、ランゲージパートナーと毎週会っていました。また、日中交流の一貫としてソーラン節のチーム「花組」に所属したこともあり、様々なことに挑戦した10か月間は私にとって、大きな財産となりました。

#### 〈後輩へのメッセージ〉

私はソーラン節という日本の伝統文化を中国で広めることによってたくさんの繋がりを得ました。日本人、そして外国人メンバーとの練習を通して得た深い繋がりを始め、多くの中国人の観客の方に日本との繋がりのきっかけを提供できることを誇りに活動を行いました。

私たち留学生は、文化の共通点や相違点を肌で感じ、その国独自の良さに気づくことができます。そして、他の人がその国へ興味を持つようなきっかけを作ることが使命の一つだと思います。みなさんが想像する以上に近代化が進み、人々の活力に満ちあふれている刺激的な国、それが中国です。後輩たちにはぜひこの刺激を現地で感じ、日本そして留学先の良さをたくさん感じ伝えて欲しいと思います。





## 和田 きらら

私が復旦大学を留学先に選んだ理由は、1年生の基礎演習で上海に関する事柄を調べたり書籍で読んだりしたことと関係があります。「上海租界」「魯迅」「内山書店」「虹口」「国際都市」等の言葉に興味湧き、実際に現地でそれらを体感したいと思いました。また、復旦大学は中国のトップクラスの大学で、世界中から多数の学生が集まります。国際色豊かな環境に身を置き、異文化を感じながら中国語力を向上させることができると思いました。

復旦大学は上海市部から地下鉄で15分の郊外に位置し、周辺にはいくつか大学があります。大学の広い敷地には、高層のツインタワーの校舎や大学職員・学生の住む寮、郵便局、銀行、食堂、コンビニ等があります。徒歩圏内にある最寄り駅周辺は開発が進んでおり、生活する上で不便はありませんでした。10か月の留学期間は長いと思っていたのですが、終わってみれば「ああすれば良かった」、「あれもしたかった」等、反省や後悔が少しあるというのが本音です。しかし、私なりに一生懸命に10か月を過ごしたと思っています。上述の上海に留学したかった理由の「体感」は達成しましたし、同じ授業の仲間と食事に行ったり、あちらこちらの観光地を訪れたりした思い出は一生の宝物になりました。

### 〈後輩へのメッセージ〉

大学でサークルに参加するのもよし、ランゲージパートナーを作って互いに言語を教え合い学ぶこともよし。出掛けた先で話す言葉が既に中国語なので、留学して言語を学ぶことがいかに有意義なことなのかを体感してください。

現地入りしてしばらくは、不慣れな土地ということもあり、日々過ぎるのは早いと思います。しかし慣れてくると、その日常が当たり前となり、なかなか持つことができない貴重な時間を過ごしていることを見失いがちです。一日一日を大切に、帰国して後悔だけはしないように充実した日々を過ごすように努めてください。







### 岩城 菜津美

私が国立台湾師範大学を留学先に選んだ理由は、旅行で訪れた際に台湾の方々の優しさに感動したこと、国立台湾師範大学では少人数で中国語を学ぶことができること、もともと台湾茶に興味があり本場で色々勉強したいと思ったことが挙げられます。

台北は日本と風景が似ており、日本製の商品もたくさん売っています。大学の周りには様々なお店があり生活に困ることはほとんどありませんでした。日本のような大型テーマパークは少ないのですが自然に囲まれている国なので普段からたくさんの自然に触れることができました。また、日本のテレビや雑誌でも台湾の方は親切だとよくいわれていますが、本当にそのとおりでとても親切です。私があるお店で、テイクアウトの仕方が分からず困っていた時、すぐ後ろに並んでいた方がどうしたら良いのか丁寧に教えてくださいました。台湾には気さくな方が多く、ひよんなことからよく会話が弾みました。私が日本から来たと言うと、「日本の〇〇に行ったことがあって感動した」とか、「日本の〇〇が好き」と嬉しそうに話してくれる人たちがいました。現在、台湾には東南アジア、アメリカ、ヨーロッパ圏からやって来る人も少なくなく、普段から中国語や台湾語のみならず、様々な言語が飛び交っています。台湾ではそんな多様性を尊重して生活している、困った時はお互い様だ、という考え方を持っている人ばかりです。

#### 〈後輩へのメッセージ〉

台湾に留学し、たくさんの台湾の方と出会いました。人懐っこくて、明るくてとても親切な方ばかりでした。そんな人たちに囲まれた環境にいた影響か、中国語を勉強すること、台湾のことがもっと好きになれました。また、台湾について深く知ると同時に、日本についても今までの自分の考え方を改める機会に恵まれました。毎日がとても新鮮で、1年では足りないくらいでした。しかし、1年で収穫することができたものは多く、出会った人々や食べたもの触れたものは私の一生の財産になりました。GC 学部を進路の一つとして考えているみなさんや、これから留学を控えた後輩達には、ぜひ国立台湾師範大学を留学先の一つの選択肢として考えてもらえればと思います。



# GC 学部 ゼミ紹介！

1・2年生で身につけた知識、Study Abroad での経験等をふまえ、さらにグローバル・コミュニケーションについて深く掘り下げて考え、各々が大学での学びの集大成へと繋げていきます。

## 質問内容

1. あなたにとってのゼミ
2. ゼミでの学び
3. ゼミを通して感じる繋がり

### 竹田ゼミ 英語コース4年生

湯浅 大輝

1. 「刺激を受ける場所」です。ゼミ生のみんながそれぞれ個性豊かなので、授業を受けていても退屈することはほとんどありません。好奇心旺盛な人が多く、様々なテーマで盛り上がっています。プライベートでもみんな仲が良いので、お互いのことをよく知っているような気がします。また個人的には性格が良い人が多いと感じるので、ぎすぎすしたり、お互いに無関心だったり、ということはありません。非常に居心地が良いゼミです。



2. 「異文化ビジネスコミュニケーション」を学んでいます。国民性の指標となる「ホフステッド指数」を参考に、国際社会でのビジネスにおけるマネジメントやクライシスコントロールなどを学んでおり、ここで培った知識が海外で働く際に活かされると思います。竹田先生は実際に海外で長年ご活躍されてきたので、お話の一つひとつに含蓄があります。日経新聞と Financial Times の記事を、プレゼンターが毎週発表し、それについてみんな議論しています。また、各々が興味のある企業の SWOT 分析（企業や事業を分析する際に用いられるフレームワーク）を発表する機会もあります。多角的な視点とプレゼン力が身につくので、就職活動に役立つと思います。

3. 先生や先輩、後輩との繋がりが最も濃いゼミなのではないでしょうか。一例を挙げると、秋に3・4年生でゼミ合宿をしています。親睦が深まるだけでなく、3年生にとっては4年生から就職活動についてのアドバイスなどを聞ける貴重な機会です。また、竹田先生のご紹介で、同志社OB会に参加したり、大阪青年会議所のプログラムの一環としてフィンランド、エストニアで研修旅行に参加したりと、学外の社会の方々との繋がりがうまれるチャンスが豊富にあります。

## 窪田ゼミ 英語コース4年生

松本 涼夏

1. 私にとってゼミは、自分の興味・関心を追究できる場所だと思います。留学を終え、大学の前半2年間で感じたことや疑問に思ったことをある一つの学問を通して、英語もしくは日本語で学べるゼミはGC学部生にとって大切な存在だと思います。



2. 主に社会言語学を学んでいます。まずは教科書を用いて社会言語学の基礎を身につけ、ディスカッション方式で理解を深めていきます。そして3年時中に学生が自分の興味あるテーマを決め、4年時に調査や研究を行います。授業内では「私たちが言語を用いる上で、社会からどのような影響を受けているか」、「言語を用いることで社会にどのような影響を与えているのか」について考えています。

3. 窪田ゼミでは基本的にディスカッション形式で授業が展開されていきます。そのため、同学年の学生との繋がりは強いと思います。また、先生もディスカッションに参加していただき、たびたび意見をくださるため先生と学生との距離は近いゼミだと感じます。先輩や後輩との授業内での交流はあまり多くはありませんが、学外活動では縦の繋がりを大切にしています。

1. 一言で言い表すとすれば、「知識の交換場所」であると思います。4年生になるとゼミ生は各自ゼミ論文に向けて、興味のある分野について文献を読み始めます。1学期に2回程度研究内容を発表するのですが、鉄の歴史について調べる人もいれば、サッカーをテーマに研究を進める人もいて、研究内容も千差万別です。各ゼミ生の発表を聞くことで今まで自分が触れたことのない分野の知識を得ることができます。
2. 国際貿易論を取り扱っています。国同士の経済活動は多岐に及びますが、その中で最も顕著なものは貿易であり、貿易理論は国際経済学の大きな1分野です。ゼミでは主に20世紀までの貿易について具体的な物品（茶、砂糖など）の流通を取り上げ、アダム・スミスの『国富論』を紐解き、貿易の原理と歴史を学んでいます。また4年生では、卒論に向けて自分が興味のある物品を一つ取り上げて研究を進めていきます。
3. 毎年、琵琶湖でゼミ合宿を行っています。そこでは、就活を終えた4年生と3年生が就職活動について情報交換をします。また私自身、ゼミの先輩が受けた企業を受けることもありましたが、その際は、その先輩に個人的に面接のアドバイスをいただいたりしました。このような際に縦の繋がりのありがたさを感じました。南井先生にはゼミ以外のことでも相談にのっていただくことが多く、月並みですが本当にアットホームなゼミだと感じています。



1. 自分自身と向き合いつつ、ゼミ生がお互いを高め合うことができる時間だと考えています。通常の授業も行われますが、先生も優しく和気あいあいとした雰囲気で行われています。扱っている内容は非常に抽象的で難しいのですが、理解していくとどんどん興味をひかれる分野だと思っています。和やかでありつつ、しっかり勉強もできるゼミではないかと思います。
2. ゼミのテーマは文化表象です。表象を一言で説明すると「ここにはないものを表す」ということです。ゼミでは、とくに文学作品や映画などを中心にある文化が「どのように表現」されていて、「なぜ」そのように表されているのかを考えています。表象というものを理解することで、より偏見なく物事を捉えることができるようになります。その視点は、異文化社会で生きる上でかなり重要です。
3. 3年生の頃には授業の一環で万博記念公園にある国立民族学博物館を訪れ、また今年に入ってから3月にゼミのメンバーと先生で有馬までフィールドワークにも行きました。後輩との交流会も春学期最初にあり、全体的にみんな仲がいいと思います。卒論についてもお互いに意見交換をすることで、多角的に自分の意見を見つめ直し、より良い意見に仕上がります。



1. 私にとってゼミとは、ゼミ生みんなが個性的で私にはない考え方に触れることができ、常に新たな発見にあふれている場所です。授業内では、各ゼミ生の意見を発表する場が多くあります。他人の考え方に触れるだけでなく、自分の意見をわかりやすく伝える能力を養うこともできます。さらに、自分の関心のあるトピックから観光学に取り組むことができるので、自分の学びたい分野を追求できる場所でもあります。
2. 松木ゼミでは人類学的視点から観光学を学んでいます。授業は毎週幅広い分野の文献を読み、それをもとにディスカッション形式で行われています。授業で勉強した人類学の理論や概念を用いて、観光地で起きている現象について観察を行うなどフィールドワークも多く求められます。座学だけではなく実践的に観光学を勉強できることが松木ゼミの魅力だと思っています。





3. 松木ゼミでは先生とゼミ生の距離が近く、絶えず意見交換が活発に行われています。それだけでなく、先生とゼミ生と一緒にフィールドワークを行うため奈良に行くなど課外活動も多くあります。ゼミ内のみんなと仲が良いので、プライベートで遊びに行くこともあり、雰囲気も良いと感じます。授業では先輩の方と交流する機会はあまりないのですが、春学期の初めには先輩との親睦会もあり縦の繋がりも作ることができます。

## 寺西ゼミ 英語コース3年生

谷口 成壘

1. 自分たちが感じた疑問を共有し、意見を交換しながらモノ・コトへの理解を深めていける場であると思います。最初からこの疑問に対する答えはこうだ、と教えられるのではなく、疑問もその答えも自分たちで見つけて知識を深めていける場所だと思っています。私たちが扱っているメタファー（比喻の一種）についてだけでなく、日常的に起こっているニュースや報道の一部を取り上げて、知識を深めるとともに自分たちの意見を交換するなど、自分たちが興味をもつ様々な方向で理解を深めることのできる環境だと思っています。



2. メタファーについて学んでいます。教科書では英語のメタファーに焦点を置き、メタファーそのものの構造だけでなく、メタファーが自分たちの日常にどのように影響しているかを学んでいます。メタファーへの理解を深める中で、メタファーの構造、意味そして影響を学び、英語のみでなく、日本語や日本文化の理解に反映させています。

3. 先輩がいないため、ゼミを通しての先輩との繋がりはありませんが、その分、自分たちで思い通りに進める自由さがあると感じています。学生数は7人と少ないため、一人ひとりと先生との交流が強くなると思います。授業外でも、希望すれば先生と面談などが可能で、メタファー研究以外でも、先生に相談にのって頂ける環境は整っていると思います。



1. 大学生らしい勉強ができる貴重な時間、場所だと感じています。今までは、アカデミックの授業はイントロダクションの部分しか触れて来ませんでした。様々な論文を使ってトピックをさらに掘り下げたり、学術的に物事をとらえてそれを言語化したり、統計を取って自ら仮説を立ててそれを検証する楽しさを感じながら学ぶことができる場所です。

2. 中田ゼミでは、主に教育心理学を学んでいます。他人や自分に対してモチベーションを管理する方法を研究します。指導者はいかにして学生のやる気を上げるか、学生がやる気を失っている時のマネジメント方法などを学術的に知ることができます。将来、社会に出た際に起こり得る、上司と部下との関係の構築などでそれを応用することは可能だと考えられます。



3. 中田ゼミは今年初めて開設されたゼミであり、先輩と後輩との繋がりはまだありません。しかし、先生との距離はとても近くアットホームで和気あいあいとした雰囲気の中で勉学に励むことができます。ゼミ論の研究では、研究テーマを掘り下げる方法や、ゴールを決めてそれに対してぶれないような研究・実証を行う方法を指摘し、多くのサポートをしてくださいます。中田先生は、私たち学生のやりたいことを支援してくださる温かい先生です。

1. ありのままの自分であることができ、且つ成長できる場所です。私たち郭ゼミ4年生は、10名で構成されています。個人のキャラクターを維持しつつ議論を深め、互いを補いながら成長させてくれる場であると考えます。発言する人やよく周りを見ている人、話を聞き空気を読める人、真面目に取り組む人など各々の良いところが垣間見られます。そんな良いところをお互いに吸収し成長できていると感じます。



2. 私たち中国言語文化ゼミは、大きく二つの面から学ぶことがあります。それは言語面と文化面です。言語面のテーマについては、中国人の名前、中国語のオノマトペや大陸と台湾語の違い、外来語、化粧品やトイレなどの文化面から見る語彙の違いなどがあります。文化面のテーマについては、ネット規制、ファッション、日中の航空産業、広場舞、日本マスコミにおける中国報道の違いなどが取り上げられます。

3. 日中交流と先輩・後輩との交流が非常に盛んな恵まれた環境です。先生が中国人であるがゆえに、議論をすればするほど、日本人と中国人との考え方の違いを理解できるようになります。また、ゼミの時間は授業だけでなく、留学前や就活前に先輩と後輩が交流して相談できる機会を必ず設けます。餃子パーティーや就活相談会、2・3・4年生合同交流会、郭先生ありがとう会など、楽しみながら繋がりを大切にしています。

## 内田ゼミ 中国語コース4年生

古川 航也

1. 自分を成長させてくれる場所です。私たちのゼミは日々新しいテーマを取り上げつつ、本当に様々なことを吸収できる場です。また日頃から多くの論文や参考文献に触れるため、論理的思考力を鍛える場でもあります。



2. 私たちのゼミでは主に中国語圏の政治外交や経済、昨今発展が著しい中国のハイテク産業について学んでいます。卒業研究では中国語圏に関する幅広いテーマの中から、今までに得た知識を活かして個人でテーマを選ぶことができます。

3. ゼミの繋がりの中で最も強く感じるのは縦の繋がりです。私たちのゼミでは定期的に先輩後輩を繋ぐ合同交流会を開催して情報共有を行っています。例えば、4年生は3年生に就職活動のアドバイスを与え、3年生は2年生に留学のことについて話すなど普段から縦の繋がりが感じられる環境が整っています。

## 唐ゼミ 中国語コース4年生

桑田 万樹

1. 「周りとともに面白いこと・驚いたことに熱中できる場所」です。唐ゼミでは斬新なテーマでも受け入れてもらいやすく、やりたいことを尊重してもらえます。そのため、同じゼミ内でも研究テーマは人によって全く異なります。それゆえに、自分が感じた疑問や論点に様々な角度から異なる意見をもらうことができ、気づけば皆議論や意見交換に熱中していることがよくあります。他のメンバーと互いに影響を与えつつ、自分の芯を強めていける貴重な場です。



2. 3年生後半は中国文学思想について学びました。中国文学を学ぶ中で中国の政治や歴史への理解も深まり、非常に勉強になりました。中国について考えるための大事なベースです。その後は卒論のテーマを各々で用意して発表し、議論を交わしながら内容を練っていきます。例えば今年のテーマとしては、「西遊記」「中国のサッカー」「インバウンド消費」があります。

3. 唐ゼミは自由度が高いのですが、それだけではなくつまづいた時のサポートも真剣にしてくれます。先生と学生の距離が近く、相談がしやすくフィードバックが早いため、興味のある分野に打ち込みやすい環境が整っています。また、先輩たちともすぐに打ち解け、相談もできます。簡単に言うと、各自やりたいことにのめり込みつつ、困った時は助け合っていくようなスタイルのゼミです。

---

## 中西ゼミ 中国語コース3年生

---

時安 誠

1. 少人数で真剣に討論できる場所だと思います。ほかの授業とは違い、各学生の意見や考えを直接聞ける貴重な場所です。少人数クラスであるため、みんなが仲良くなりやすく、和気藹々としながら授業をしているのもいい点だと思います。さらに中西ゼミは発言の機会や発表回数も多いので、プレゼン能力が養われます。

2. 中西ゼミでは言語学の知識を用いて、中国語の方言や中国語の成り立ちについて学んでいます。言語運用能力を養うための外国語の授業とは違い、専門的な視点から言語の枠組みを研究することにより、より深く中国語について知ることができます。またそのような言語学から得た知識は、中国語運用能力をさらに高めることにも効果的です。

3. 中西先生は感性がとても豊かな方であるだけでなく、私たち学生との時間をとても大切にされる優しい方です。また、留学前の3か月間、毎月ゼミの終わりに先生に食事に連れて行っていただきました。先生と学生が信頼し合うことのできる素晴らしい関係を築くことができると思います。そのような繋がりを築けたことが、このゼミの一員でよかったと心から思える理由です。



1. 互いに励まし合いながらともに成長していく場です。また、論文の作成や就活などについて抱えている悩みを打ち明けやすい場でもあります。みんなと顔を合わせて話し合い、自ら問題を見つけて提起することは、自己分析や自分の問題を理解することにも繋がります。
2. 脇田ゼミでは、先生から学生への一方的な伝達ではなく、先生と学生とのコミュニケーションが重視されています。卒業論文のテーマを決めるためにアイデアを出す目的で行われるプレゼンテーションと討論が多くあります。論文を書き始めるにあたり、先生の専門的な知識とアドバイスは論文の方向性を導く時の大きな助けとなっています。脇田ゼミは、互いに意見を交わすことでゼミ生の問題意識が高まることを実感できるゼミです。

3. つねに様々な情報を先生が教えてください。先輩たちがゼミの論文をどのように取り組んできたか、就活をどのように乗り越えてきたかなど様々なことを伝えてくれます。就活を控える私たちにとって、先輩たちの体験と知識は大いに役立ちます。また、先生との繋がりの中で、先輩たちが働いている会社の情報を入手することができ、OB 訪問にも繋がります。



1. 自分が持つ疑問を解くために、他の学生と情報を共有しつつ、研究できる場所だと思います。大人数の授業では自分の意見を発信することは多くありませんが、ゼミでは、様々なことを学び、多くの知識を吸収したあとに思った疑問を自ら追求することができます。自分の成長にとって大切なものだと感じています。
2. 現在、日本語学習者に関するイントネーションについて研究しています。日本語学習者が日本語をしゃべる時、イントネーションを把握することは難しいことです。とくに終助詞が違うイントネーションによって、伝えたいことが本意と違う意味になる可能性があります。例えば、「いいよ」と言うと、「よ」が高いか低いかのイントネーションによって、喜んで受け入れる意味と不満を表す意味の二つに分かれます。
3. 先生との繋がりが重要だと思います。自分の研究の方向性を相談することができ、発信する内容などをアドバイスしていただけます。また、先輩や後輩から率直な意見が多くもらえ、非常に助かります。





1. 4年間の大学生活の中では、極めて有意義な時間を過ごすことができる場所です。我々のゼミは少人数のため、専門分野の知識を効率的に学び運用できると同時に、先生や学生との繋がりが強いゼミであると思います。また、勉強だけでなく、交友関係を深めることもできます。
2. 鈴木ゼミでは時代・社会背景と個人のライフコースとの関係を研究しています。今は卒論を書く前の準備段階として、自ら決めた卒論のテーマに関わりのある方にインタビューを依頼して、直接お話を伺いデータを集め、少しずつ研究を進めています。データ収集とその分析方法は前もって学習するので、スムーズに研究に取り組むことができます。ゼミでの学習から、日本と海外の雇用制度や人材育成の違いについて理解し、日本の就職活動と就労の問題点を表層だけではなく学術的な視点からも深く議論できるようになりました。また、日本の就労におけるルール（給与制度・在留資格・福利厚生など）を知ることができました。
3. 鈴木先生のおかげで、ゼミの雰囲気が良く、とても楽しいです。先生は、ドキュメンタリーや映画を通して我々の観察力を高めてくれて、難しい要点もわかりやすく説明してくれます。また、先生と私たち学生との関係は親密で、先生は授業だけでなく、生活や進路の面でも色々と手伝ってくれました。私は、ここで自分の発言や行動に責任を持つことを学びました。





# Seminar Project 大紹介!!!

必修授業である Seminar Project (セミナープロジェクト (通称セミプロ)) とは、GC 学部英語コース・中国語コース・日本語コースの4年生が合同で行うプロジェクトです。コースの壁を超え、3年間学んだことを活かし、教員ではなく学生が主体になって一から企画を立案、実行します。ここでは、個性豊かな2018年度の全7プロジェクトを紹介します。

## 世界のことを考えよう ～国際理解教育プロジェクト～

駒場 由行

### 1. セミプロの最終目標と目標達成に向けた思い

最終目標は小学校訪問を通して、小学生に異文化に対する興味や関心、理解を深めてもらい、自主的に国際的な内容を学習してもらえるように促すことです。小学生という低年齢の子どもたちを相手に学習意欲を高めようとする取り組みはとても難しいものです。しかし、難しいがゆえにやりがいもあり、以前訪問した際も多くの生徒から良い反応を得ることができました。次回は2度目の訪問ということで、生徒たちも期待してくれていると思うので、期待以上の成果を出していきたいと考えています。

### 2. このセミプロを選んだ理由

単純に多くの小学生と交流したかったからです。就活などで自分より年上の人たちと多く接する機会があり、来年からはそれが毎日やってきます。その前に、自分よりも年下の人たちとどのように接すれば良いかを考えてみたかったという思いがありました。中学生・高校生向けのプロジェクトもありましたが、小学生の方が純粋で可愛いと思い選びました。また、このプロジェクトの担当教員と仲が良いことも理由の一つです。困った時、すぐに相談に乗ってくれる My favorite professor です！



### 3. 今後社会においてセミプロで学んだことがどう活きるのか

ターゲット分析を徹底してコンテンツを作るという過程は非常に良い経験になり、今後社会人になっても必要なスキルだと思います。単純に異文化理解を深めてもらうことだけを考えるのではなく、小学生を相手にする際はどのような内容で、どのような方法で、またどのような言葉遣いで授業を展開していくのかも熟考して備えました。自分たちが届けたいという一方的な考えではなく、相手のことも十分に配慮した上で双方が納得できるようなものを作り上げることを目標としてきたこのプロジェクトでの自分たちの姿勢を、これからも忘れずに活動していきたいと考えています。

## 京野菜

金川 采樺

### 1. セミプロの最終目標と目標達成に向けた思い

私たちが掲げる最終目標は、京野菜の魅力を国籍、老若男女問わずより多くの人に発信し、地域活性化に繋げることです。そのプロセスとして、まずは私たちが発信できるだけの京野菜の知識をつけることが挙げられます。そして講演会や体験型イベント、SNSへの投稿等を通して私たちのような学生一人ひとりがインフルエンサーとなって京野菜の魅力を発信し、京野菜の認知度を向上させるだけでなく、最終的には地域活性化へと繋げていきたいと思っています。

### 2. このセミプロを選んだ理由

京都の地に住み京都の大学に通っている身として、文化だけでなく私たちの生活に密着している食の観点から京都についてもっと知りたいと思ったことがこのセミプロを選ぶきっかけとなりました。京野菜というと、ブランド力がある、栄養価が高いなどというプラスのイメージがある一方で、値が張る、正直何をもちょう京野菜というのか分からない、知名度だけが独り歩きをしているなどというマイナス面があることを知りました。このセミプロを通じて京野菜に対する理解を深めていきたいと思ったのと同時に、自らが発信源となり多くの人に京野菜について知ってもらうために貢献したいと思い選びました。

### 3. 今後社会においてセミプロで学んだことがどう活きるのか

このセミプロでの活動を通して 1. 目標を明確にすること、2. 目標達成のために必要なプロセスを逆算して計画的に組み立てて実行すること 3. 情報の共有化を図ること、の大切さを身をもって学びました。つねにターゲットを明確にし、全ての情報をメンバーで共有し合うことで、目標を達成するために今何をすべきか、何が 필요한かを洗い出し、問題点にアプローチしてきました。ただ単に目標を掲げるだけでなく、それを実行することができる力が要求される実社会で、この経験は生きてくると感じました。



# 国際的な視点で見つめる戦争体験 (京都ツナグミュージアム)

千葉 椋介

## 1. セミプロの最終目標と目標達成に向けた思い

私たちのセミナープロジェクトは、戦争体験を次世代へ伝えるためのイベントを開催することを目標としています。「京都ツナグミュージアム」と題して現在イベントの企画を進めています。この「ツナグ」には、戦争体験者の方とそうでない方を繋ぐ、戦争の記憶を次の世代へと繋ぐといった意味が込められています。具体的には、戦争体験者との座談会や、私たちが体験者の方からお借りした写真を展示する写真展などを企画しています。戦争体験という重いテーマではありますが、メンバー全員が納得できる「京都ツナグミュージアム」を作っていきたいと考えています。

## 2. このセミプロを選んだ理由

友人から戦争体験の風化が社会問題になっていると教えてもらったのが、戦争をテーマにしたいと思った直接のきっかけです。そして、従来の戦争体験イベントは、少々一方的ではないかと疑問に感じたのも理由の一つです。戦争を体験した方が戦争を知らない世代へ自分の体験を伝える。そんな企画が多いと思うのですが、これでは若い



世代は単なる聞き役で終わってしまいます。そうではなく、戦争を知る世代、知らない世代の双方が意見を交換し、より能動的に「戦争体験」と関わっていける場を作ることができればと思い、このセミプロを選びました。

## 3. 今後社会においてセミプロで学んだことがどう活きるのか

このセミプロで痛感したことは、イメージを他人と共有することの難しさです。私たちのセミプロでは、授業が開始された時に具体的な内容が決まっているわけではありませんでした。そのため、メンバー同士で意見を出し合いながら具体的な活動や、イベントの内容を作り上げてきました。しかし、セミプロの目的が漠然としていることもあり、メンバー間で認識のずれや意見が一致しないことも多くありました。その結果、自分の意見やイメージをより丁寧に伝えることを意識するようになりました。この経験は、世代や経歴が異なる人と接する機会が増える社会人になっても活かせると思います。

# 高校生のグローバルな未来を開く

川見 将紀

## 1. セミプロの最終目標と目標達成に向けた思い

このプロジェクトの目標は、高校生のグローバル化に対する意識を向上させることです。具体的には、高校生が現代社会におけるグローバル化の重要性を理解し、彼らに「私も海外留学に行きたい」、「もっと外国語を学びたい」という意欲を持ってもらうことを目的としています。世界各地で様々な経験をした私たち21名が、自らの経験・思いを高校生に熱く語ります。高校生からの質問にも真摯に向き合うことで、彼らが抱えている留学や言語習得に対する不安要素や懸念が少しでも軽減され、上記の目標達成に繋がるよう精一杯努力しています。



## 2. このセミプロを選んだ理由

私がこのテーマを選んだ理由は、私の高校時代の経験と深く関わっています。当時の私は、将来は英語を話せるようになりたいと思っていましたが、高校の授業で英語を「使う」機会はありませんでした。当然、英語を話す・聞くスキルは上達せず、英語を話せる人というのは雲の上の存在であり、自分はそうはなれないだろうと感じていました。この状況が、留学に行きたい・外国語を学びたいという思いに蓋をしてしまっていると考えた私は、同じような思いをしている高校生たちの背中を押していきたいという思いで、このテーマを企画しました。

## 3. 今後社会においてセミプロで学んだことがどう活きるのか

このプロジェクトから学んだことは責任感と交渉力です。春学期中に計10校と交渉及び打ち合わせをする中で、学校側から厳しい言葉を受けることもありましたが、それを通して学校教育に携わる責任感を感じ、身が引き締まりました。学校側のニーズに応えつつも、全てのニーズに応じるだけでなく、私たちの要望も取り入れてもらえるよう、何度も入念に打ち合わせを行いました。プロジェクトを進める中で身についた交渉力や、自ら交渉したからこそ必ず成功させようという使命感は、今後のキャリアの中で生きてくると信じています。

# 日本の祭りを世界に！ ～国際交流×地域活性化～

鈴木 健斗

## 1. セミプロの最終目標と目標達成に向けた思い

本プロジェクトでは、京都・奈良・大阪の祭りを取り上げ、外国人留学生にその素晴らしさを理解してもらうことを目的に活動を行っています。その背景には、留学を経験してきたGC生としての恩返しの気持ちと人口減少で参加者不足に悩む地域の祭りの力になりたいという二つの思いがあります。留学を通じて身につけた語学力・コミュニケーション能力を活かして、地域の祭りと留学生を繋ぐ架け橋となること、それが私たちの目指す姿です。

## 2. このセミプロを選んだ理由

自身の留学を支えてくれた方々に対する恩返しの気持ちがあったからです。米国留学中にその国の文化をもっと深く知りたい、もっと英語がうまくなりたいと考えていた私のために多くの人がイベントを企画し、またランゲージパートナーをしてくれました。そんな私の留学を支えてくれた人たちに感謝の気持ちを表現する場として、このセミプロを選びました。今度は、私が日本に来てくれた留学生のために日本の伝統文化を伝えるサポートをしていきたいと思いました。そんな思いのもと、祭りプロジェクトに全力を注いでいます。

## 3. 今後社会においてセミプロで学んだことがどう生きるのか

セミプロを通じて最も磨かれた力は「交渉力」です。例えば、私たちのプロジェクトでは、これまでまったく縁のない地域のお祭りに参加させて頂くため、電話で運営の方とアポを取ることから始まります。交渉を進めていく中で、いかに相手の立場に立って、考え、話を進め、祭りの参加に繋げていくかを学びました。今後社会で自分が何かを成し遂げたいと思った時、一人では実現できないこともたくさんあるでしょう。そういった際に今回の祭りプロジェクトで培った「交渉力」を活かし、多くの人を巻き込んで成功に結び付けていきたいと思います。





# Doshisha Bridge Project

松原 萌

## 1. セミプロの最終目標と目標達成に向けた思い

私たちのセミプロは春学期に1冊、秋学期に1冊のフリーペーパーを作成します。春学期に1冊作ったノウハウや、クーポンを使って得た読者の情報を使い、広告費を頂くことで、秋学期は大幅な増刷を目指していました。そんな時に、あるご縁で実際に春学期に1冊完成させたということの評価して頂き、雑誌 CanCam とコラボすることとなりました。もちろん、これまで以上に忙しくなることを覚悟し全員で一丸となって、フリーペーパー完成に向けてラストスパートをかけます。

## 2. このセミプロを選んだ理由

高校生の頃から、セミプロに多少の憧れを持っており、1年生の頃から何か企画したいと考えたからです。このプロジェクトを企画したのは、自分が留学中に感じた不便さから、観光客、地元店舗、私たち学生が Win-Win-Win の関係を目指そうと考えたからです。日本に来る観光客に文化、歴史、マナーに加え、さらに京都のディープな情報を伝えること、地元のレストランをフリーペーパーに掲載し接客フレーズ集を提供すること、そして私たちはその工程で学びを得ることにより、すべての立場でそれぞれの利益を得ることができると考えました。

## 3. 今後社会においてセミプロで学んだことがどう活きるのか

私は責任のあるリーダーという仕事をさせてもらい、全部の工程を試行錯誤しながら考え、計画し、実行に移していく上で、たくさんさんの失敗と後悔を重ねました。そこで、しっかり考え抜き、仲間と協力し、解決していく力が一段とついたように感じています。私は、セミプロは社会人の予行練習だと考えています。どれだけ積極的に自分から関われるかで、得られるもの、吸収できるものはまったく違って違うと思っています。これからもその精神を忘れずに社会に出ても活躍できる人材になりたいと考えています。



# プレゼンテーション能力向上プロジェクト

西 宥樹

## 1. セミプロの最終目標と目標達成に向けた思い

私たちのプロジェクトの最終目標は、2018年11月24日に様々な分野で研究する登壇者によるトークイベントTEDxDoshishaUを開催し、参加した全ての方々に何かしらの「きっかけ」を与えることです。

ただ単にTEDxイベントを開催することは、そこまで難しいことではありません。しかし参加した全ての方々が何かを得ることができる、そのようなイベントを作るのはかなり難しいことです。しかし私たちはそれが不可能なことだとは決して思っておりません。目標達成に向け、どうすれば参加者の方々に「きっかけ」を与えることができるか、私たちは、最後まで考え抜き、実行していきます。



## 2. このセミプロを選んだ理由

私は同志社中学から同志社大学まで、約10年間同志社にいます。同志社が私を育ててくれたと言っても過言ではありません。そこで最後の年に母校に恩返しをしたいという思いから、このプロジェクトを提案しました。同志社では活発に学生が自分のアイデアを自由に発信し、実際に行動に移しています。キャンパスではつねに誰かが多くの人を巻き込んで、面白いことをしています。TEDxDoshishaUをきっかけに、同志社がそんな面白い学校になってほしいと考えています。

## 3. 今後社会においてセミプロで学んだことがどう活きるのか

正直、今は必死すぎて、このプロジェクトで何を学んでいるかなどを振り返る暇はありません。しかし、確かに何かを学んでいる感覚はあります。いくつか失敗もしていますし、学内学外問わず多くの人と関わり、色々なことを教訓として学ぶこともありました。人との関わり方、宣伝の仕方、チームの動かし方など学ぶことは多くあると思います。今後社会に出て、実際に今経験していることと同じような状況に直面した時に、「あの時はああして失敗したな」というように、振り返ることができる経験は多くしていると思います。

# GC 学部と教職

今年（2018年）は GC 学部英語コースに教職課程が導入されて2年目になります。まだ、GC 学部で教員免許を取得して卒業した学生はいませんが、現在まで教職課程の学習は GC 学部の学生にどのような影響や成長をもたらしているのでしょうか。また、どのような思いで教職課程に臨んでいるのかを留学中の2年生に実際に尋ねてみました。始まったばかりの GC 学部と教職の「繋がり」を取り上げます。

英語コース 2年生（アリゾナ州立大学 留学中） 山本 大

**Q1** どうして教職課程を選択しましたか？

**A1** 1年生の初め、私は将来やりたいことがはっきり決まっていませんでした。それで、少しでも自分の将来の可能性を広げるためにも教職課程を選択しました。また、私は高校の英語の先生をととても尊敬していて、そのことはこうして大学で英語を専攻していることにも深く関わりがありました。つまり、英語教師という存在に少し憧れを感じていたことも教職課程を選択した理由の一つです。



**Q2** 実際に GC 学部で教職課程を選択することは大変ですか？

**A2** 留学準備のための科目に加えて履修するため勉強時間は多くなります。そのため、テストが重なった時は大変だった印象がありますが、そのおかげで時間の使いかたが上手になったと思います。また、集中して学習するので、授業内容の理解も普通より捗り、留学中のリーディング課題がそれほど多いと思わなくなったことも大きな収穫です。

**Q3** 教職課程で得た経験はどんな影響を与えていますか？

**A3** 教職課程で学んだことを活かして、教師の視点から教育や授業を見るということができるようになりました。そうすることで、教師が授業を通して学生に本当に学んでほしいことは何かを考えられるようになったことはとてもいいことだと感じています。また、それを自分は学生の目線からも見るができるため、そこからさらに理解を深めるためにはどうすればいいのかを考えることができます。具体的には、ある考え方をどう学生にアプローチすれば最も有効であるかを考えることができます。また、そのアイデアを活かし授業の雰囲気作りのためにどんな工夫をすれば良いのかを考えることで、違った授業の学び方や楽しみ方ができます。それは、チームを効率的に運営するために必要な力にも結びついているので、オーガナイザーとしてのスキルも磨くことができます。

**Q4** 留学中に教職課程での学びを活用した場面はありますか？

**A4** 日本の教育についての知識があるため、現地の学生と教育に対する考え方を話し合うことができました。そこで見つけたものは授業に対する意識の差を中心とした、歴史や文化などの様々なバックグラウンドが教育に与える影響の違いです。どちらが優れている、劣っているということではなくお互いの良さや足りないところを理解することは、留学先大学での学びをさらに深めています。

**Q5** 今後教職課程を履修し続けますか？

**A5** まだはっきりとは決めていませんが、留学先での授業や教育に関するボランティアをしているうちに、さらに興味が深まっています。免許を取得するだけが目標ではなく、さらに多様な異文化理解に対する価値観を身につけられることは GC 学部で教職課程を選択するメリットであると感じています。

---

教職課程を GC 学部で選択することは、免許を取得すること以上の価値があるようです。留学を活かして教育に対する理解を多様な視点を通して深めていくことができるのは GC 学部で学ぶ特権の一つといえます。

---

「教育について話すことを通じて、  
うまれた繋がりで」



# GC 学部の Activity

GC 学部で得られる学びや経験は、授業と留学から得られるものだけでももちろんありません。大学の外にまで広がる様々なアクティビティがあり、GC 学部の学生はどれにおいても全力で取り組み素晴らしい成果を残してきています。その中から今回は三つの Activity を紹介します。

## オープンキャンパス

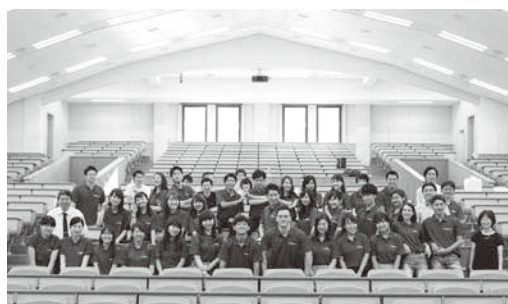
岡部 和也 ジェームズ

GC 学部の“Welcome to GC”は、同志社大学のオープンキャンパスで唯一の学生主催の企画です。毎年、全学年全コースで参加者を募り、高校生に私たち学生目線でリアルな GC 学部の魅力を伝えることを目的としています。今回の“Welcome to GC”のスローガンは「心を動かす」でした。GC 学部にもともと興味のある高校生はもちろん、あまり関心のなかった高校生にも GC 学部のカッコよさ、魅力、何ができるかを伝え、GC 学部に入った自分の将来像を想像し、GC 学部に入りたいと思ってもらうことが最終目標でした。

しかし、これだけ大きなプロジェクトを成功させるには当然いくつもの壁や問題がありました。一つ目は、コースと学年間に存在する意思疎通の難しさです。とくに最初はお互いに対する気遣いや意見の食い違いによるコミュニケーションの取りづらさがありました。そのためチーム内で班を作りプレゼンテーションの練習をしたり、学校外でも関わり合ったりして、先輩、後輩やコースの壁によるコミュニケーションの取りづらさを解消するようにしました。その結果次第にとても明るい雰囲気になり、練習自体を全体で楽しみながらすることができていたように感じます。

二つ目は、オープンキャンパスに参加することで学生生活が格段に忙しくなるということでした。チームメンバーにはサークル活動やアルバイト、休みの日までも犠牲にしてもらい、準備や練習に打ち込む日も少なくはありませんでした。しかし、それだけにオープンキャンパスをやり遂げた時の達成感や充実感はとても大きかったと思います。

このような大変さがあるにもかかわらず、私が2度目のオープンキャンパスに参加したのには理由があります。質疑応答では GC 学部に関心を持った高校生や、自分たちのプレゼンテーションを通じて GC 学部に入りたいと思ってくれた高校生と話をすることがあります。会場された人たちに及ぼす影響力の大きさを感じることは、自分の所属する GC 学部に誇りに思うことに繋がります。このように高校生には GC 学部に入りたいと思ってもらい、後輩たちにはまた参加したいと思ってもらうことができたのであれば“Welcome to GC”は大成功であったと思います。





# Fountain Commons (FC)

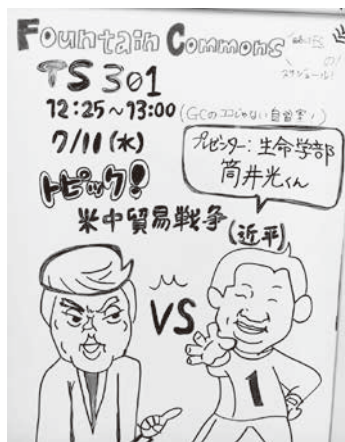
小野 未雅

Fountain Commons (FC) は、グローバル・コミュニケーション学部の1期生が立ち上げた国際時事勉強会サークルで、主にプレゼンテーション、ディスカッションを通して、国際時事問題への理解を深めています。2018年から、同志社大学公認認定団体となり、知の一粟を意識し、みんなで教養の波紋を生み出すことを目的に活動しています。団体名には、一人の知識は限られています。意見や知識を持つ人たちが集まれば、Fountain Commons (知の泉) を生み出すことができるという想いが詰まっています。

FCはプレゼンテーションスキルと自己成長の面において、とても挑戦的です。プレゼンテーションスキルの面では、顧問の寺西先生からフィードバックを毎回受け、自分自身のプレゼンテーション技術と向き合います。自己成長の面では、意見を持つこと、意見に耳を傾けることを通して問題点と疑問点を整理し、多角的な視野で論理を展開し、論理的・批判的精神を身につけていきます。

そんなFCに私が入った理由は、勉強よりも純粋に楽しそうだからというだけでしたが、実際に入ってみると、先輩、後輩との繋がりも楽しむことができました。また実践的に計画を立てることで自分の時間が確保でき、無理なく楽しくサークル活動に参加していました。FCでは、ただなんとなく「よかった」ということではなく、プレゼンテーションやディスカッションを日本語ですることで社会問題を真剣に考えられる有意義な時間を得ることができます。

自分自身が世の中の事情をいかに知らないのかを実感することが多く、FCに入る以前よりも世界の出来事に関心を持ってニュースを読む習慣が身についています。目の前のことだけに注意を払うのではなく、世界レベルの視野から物事を調べて、議論を交わして、考えていく力は将来必ず役に立つと思います。



# 模擬国連

和田 尚美

3年時の Advanced Communicative Performance というクラスで、模擬国連 (Japan English Model United Nations) に参加することができます。JEMUN は毎年近畿大学で開催されているイベントで、国内外から集まった学生が2泊3日で国際問題について議論をし、解決策を提示することを目標としています。参加者は大使 (Delegate) として一人一国を担当し、議題ごとに分けられた Room に所属し活動をします。例えば、私の場合はマレーシアの担当で Room4 に所属していました。Room4の今年の議題は HIV/AIDS で、マレーシアが HIV/AIDS に対してどのような政策を出し、対処してきたかを調べ、国の代表として交渉に参加しました。普段は日本の視点でしか物事を見ることがなかったため、このシステムはとても新鮮でした。他にも、少数ですが Journalist という役割もあり、各 Room へ取材に行って記事を書き、Facebook などを用いた広報活動を行います。もちろん、これらの進行は全て英語で行われますが、語学力だけでなく国連や担当する国についての知識も問われるため、私たち GC 学部生にも新たに学ぶことがたくさんあります。

また、他大学から参加した学生も優秀な人ばかりで、良い刺激を受けました。一部の学生は大学のクラブ活動として模擬国連に参加しており、経験豊富で様々なことを教えてもらいました。数十ページにも及ぶ資料を持参している人や、私たちと同じ初参加の身で堂々と発言する人など、それぞれがとても真剣で、自分の勉強不足を痛感する場面もありました。期間中は GC 学部生同士で「大変！しんどい！」などと言いつつ合っていました。最後には同志社大学として Positive Impact Award を受賞しました。また、Room につき一人ずつが選ばれる Position Paper Award, Diplomacy Award では、私を含め二人が表彰されました。GC 学部は今まで何度か JEMUN に参加していましたが、受賞はこれが初めてのことだったので、このメンバーで結果を残すことができとても良い思い出になりました。

このように、JEMUN は問われるものがとても多いイベントですが、その分楽しいこともたくさんあり、留学が終わって次の目標を探している人には自分を試す良い機会になると思います。3年生はそれまでに比べて非常に忙しくなりますが、1年生、2年生のみなさんにはぜひ挑戦し、自己成長に繋げてほしいと思います。



# GC 学部が誇る先生の原点

本学部が誇る先生は一体どんな人生を歩んできたのだろうか。何が現在の先生を作り上げてきているのだろうか。どんな思いを持っているのだろうか。インタビューを通じて先生方の過去そして現在を解き明かします。



伊勢 晃 先生 (20世紀フランス文学)

## 「好きが原動力」

### フランス語との繋がり

私は小さい頃から本を読むのが好きで、ジャン＝ジャック・ルソーやマルセル・プルーストなど、特に関心があった文学者の作品を原文で読みたいという思いからフランス文学を専攻しました。初めからフランス語が得意であったわけでも、勉強熱心な学生だったわけでもありません。大学2年生になってやっとフランス語をきっちりと学ぼうと一念発起し、動詞の活用さえよくわかってないのに、夏休みにいきなりレイモン・ラディゲの『肉体の悪魔』という小説を原文で読み始めました。ほとんどすべての単語を辞書で調べないといけないような状態で、あまりに根を詰めすぎたため入院したのは今でも伝説です(笑)。このように文学が好きだという思いがフランス語との繋がりを作り上げてくれたのだと思います。

### フランス語による繋がり

大学でフランス語を教えていただいた恩師との出会いは、その後たくさんの繋がりをもたらしてくれました。大学を辞めようと思っていた1年生のとき、その先生からいただいた「どの大学にいても同じだよ、やるのは自分」という言葉、すなわち自分の中にすべてがある。というメッセージを今でも覚えています。この恩師は多くの人が憧れた著名な先生であったにもかかわらず、いつも明るく気さくで学生の力を信じてくださる方で、当時私が抱いていた「大学の先生」とは全く違った方でした。残念ながら阪神大震災でお亡くなりになりましたが、私の中にはいつも先生の大きな体とバリトンの声が浮かびます。

大学・大学院と、ギヨーム・アポリネールという詩人の芸術観について研究をしました。きっかけは、アポリネールがピカソの友人であり20世紀初頭の芸術に大きな影響を与えた人物でありながら、なぜ詩人としての側面ばかりが強調されているのか、なぜ日本ではあまり知られていないのか、という疑問からであり、この20世紀の新しい芸術の推進者についてもっと深く知りたい、もっと正当な評価を与えたい、という思いからでした。今、研究を進めている宝塚歌劇団についてもその思いは共通しています。なんとなくのイメージが先行し、その重要性を知られないまましているもの、正当だとは言えない評価を受けているものについてこれからも研究し、紹介していこうと思っています。

### 学生へのメッセージ

すでに出来上がっている評価やイメージについて、まずは自分の目と頭で確かめ、考えてみる事が大切だと思います。自分の中にはすべてがある、その内部の無限の広がりを感じながら、楽しんで生活してください。自分への自戒も込めて…

## Calum Adamson 先生 (応用言語学)

### “Follow your dream, and keep smiling!”



#### 人生における大きな決断

私は10年前に2年間、静岡でレストランを経営していたことがあります。それ以前も教職には携わっていましたが、生涯を通して教育の仕事をしたいかどうかは確信がありませんでした。加えて、当時は自立して自分自身に頼るという考えにひかれていました。そして、私はずっと食べ物と料理が好きだったので、一か八か試してみる価値があると思いました。

#### 影響を受けた人物

父親の存在は凄く大きく、尊敬しています。父が若かった頃、彼の母ががんで亡くなりましたが、裕福な家庭ではなかったので、生活は楽ではありませんでした。父は、12歳の時に医者になって人々を助ける決意をし、実際にその思いを果たしました。父は医師としてお金を稼ぐことはまったく気にせず、苦しんでいる人々を訪問する無料の医療サービスにとっても多くの時間を費やしました。私は時折、父が働きすぎではないかと感じることもありましたが、彼は私が知る中で最も寛大であると共に自分の信念を持った人だと思えます。父はユーモアにあふれた人でもあり、彼のような人が増えれば世界はより良くなることと信じています。

#### 人生におけるチャレンジ

仕事はつねに挑戦的なものだと感じています。最近の若者は自分のベストを尽くすことができると同時に長く続けられる仕事を見つけるのに苦労しているようです。自分自身の価値を高め、生涯にわたって学び続けることは、キャリアを積んでいく上で重要なことだと思います。何事にも自分のベストを100%出し尽くし続けていけば、遅かれ早かれ良い方向に向かっていくはずだと信じています。

#### GC 学部生へのメッセージ .....

今年(2018年)はGC学部生と共に過ごすのは4年目でしたが、毎年非常に楽しくやりがいのあるものでした。私はこの大学の専任教員ではありませんが、多くのことを共に成し遂げているという実感があります。そしてGC学部の学生と共に過ごしている時間をとても幸運に思うと同時に彼らを誇りに思います。留学を控えている学生の皆さん。皆さんがこの貴重な機会を最大限に活用して実りのあるものにすることを願っています。そして、就職活動をしている皆さん。皆さんが自分の夢みる仕事を見つけることを願っています。しかし、必要な時はいつでも道を変えられることを忘れないでください。そして、卒業を控える皆さん。皆さんが社会で活躍することを願っています。皆さんが勇敢にそして寛大になり、GC学部で学んだことを活かして社会を今よりも良くしていくことを心から期待しています。

Many thanks to all my students for their hard work, humor, kindness and energy!

(竹本 名歩 記)



須藤 潤 先生（音声学、日本語教育学）

## 「人と一緒に成し遂げる」



### 教員を目指した原点

高校生の時にオーストラリアに留学をした際、現地の学生が日本語を学習している姿を見ました。その姿を見て、日本がいろんな形で現地の人に受け入れられていることを感じる事ができて、日本語を教えるのは面白そうだなと思い始めました。

### 教員としてのやりがい

日本語の教員としては、学生が日本語を習得した後なんらかの形で日本に関わってくれていたら、そのきっかけを作れたのではないかと考えて嬉しくなります。以前日本語を教えた学生の中には、最初はほとんど日本語をしゃべることができなかったが、最終的には日本へ留学して博士号を取得し、今は日本人と結婚して働いているという人もいます。

### 大切にしていること

社会に出て何かをしようとする時、一人の力でできることは本当に小さいことに気がつきます。いつか誰かと共同で何かをやる時は必ずやってくるので、その時のためにも現在、学生同士が話し合い、共同で何かを作りあげることなどを授業の中に取り入れるように心がけています。「いろいろな人と一緒に成し遂げていく」という力の大切さを学生の皆さんにも分かって頂きたいと思います。そういった意味でも今後、学部内にある日英中のコース間の交流を増やしていきたいと考えています。留学生と一緒に勉強をしたらきっと考え方の違い等も分かってくるはずですから、GC 学部にあるこのような学びの機会をもっと活用していけたらいいなと考えています。

### 高校生・受験生へのメッセージ .....

私が、今一番関心を持っているのは「日本語の意識改革」。最近、入管法（出入国管理及び難民認定法）の改正を契機に、日本で働く外国人には日本語教育が受けられるようにしよう、という運動がやっと活発になってきました。日本社会に生きる皆が日本語教育の大切さを共有できるようになることが、まずは一つ大きな「意識改革」。でも、日本語コースの留学生と議論していく中で、もう一つの意識改革が必要だと思うようになりました。「学習して使えるようになる日本語」と「母語として無意識に使う日本語」の間にある壁、これも皆が理解しなければ、日本語を使って共に日本社会を支えることは難しいのではないかと考えました。まだ具体的な活動はほとんどしていないし、うまくいくかどうかわからないのですが、もし関心があれば、日本語コースの留学生なら、ぜひ私のゼミで学んで活動してほしいですし、他のコースの学生も大歓迎です！ ことばから社会を変える活動を一緒に始めませんか？



# 1 期 生 ・ 2 期 生 に 聞 く G C 学 部

本学部は開設以来、今年（2019年）で9年目を迎えますが、卒業生は多方面で活躍しています。今回は本学部1期生、2期生の先輩方を訪問し、GC 学部で得た学びや繋がり、今後の目標などについてお話をさせていただきました。また日本語コースの卒業生の方には、日本での就職活動を振り返って留学生に向けたアドバイスを頂戴しました。いずれのお話も本学部での学びや将来のビジョンなどを考える上で、大いに参考になる内容だと思えます。

## 英語コース 下山夕貴子さん 2期生 全日本空輸（ANA）

### 学部での学びを振り返って得たこと

まず行動力が身につきました。GC 学部の学生は目標が高くてやる気に満ちあふれた人が多いので、つねにモチベーションを上げてくれます。良い意味で焦りを感じる事が多く、ダラダラとした学生生活を送ることはありませんでした。就職活動も最初は目標とする職業など思いつかなかったのですが、周りに触発され、CA（客室乗務員）の方のお話を聞くためだけに東京に行きました。思い立ったらすぐに行動に移すという積極性が身についたと思います。



### ためになったことや力を入れたこと

1年生の時は、2年生の留学予定先であったイギリスの英語に少しでも触れておくことを目標にしていました。2年生で実際にイギリスに行ってみると、英語力が大切なのは勿論のことですが、それよりも人間性を磨かなければ向こうから振り向いてくれないことに気づき、留学中はその部分も伸ばすことを心がけていました。イギリスでは、当時立ち上げ当初であった日本文化サークルに入り、そこで日本語を現地の大学生に教えていました。そのような活動のおかげで度胸が付き、英語力も向上し自分のコミュニティも広げることができました。

### 卒業後の GC 学部のメンバーとの繋がり

それほど頻繁には会えませんが、GC 学部の仲間は同じ留学という経験や大学生活を共にした者同志なので、卒業してからも分かり合える貴重な存在です。

### 現在大切にしていること

「自分の目で見えたもの、聞いたこと、感じたことを一番に大事にすること」

例えば就活の時に「CA って〇〇な世界だよ」といううわさではなく、直接話を聞くために CA の方に会いに行き、その上で、感じたことを信じて CA を選びました。それは実際に働き出してから正しい選択であり、自分を信じて動いて良かったと思っています。また仕事の場面においても、一人ひとりのお客様と向き合うことを心がけています。そのお客様がどのような方が、見

目などで判断するのではなく、実際にその方とお話しをした上で、相応しいサービスが提供できるように努めています。

## 今後の目標

仕事面では、入社3年目に入り、1年以上の国際線での経験を通じて、現在では業務全般の知識を身につけることができました。次の目標はパーサー（責任者）の資格をとるためのマネジメントの力をつけていくことです。責任者の立場は、あらゆる事象に対応する能力が求められます。そのような力を養うためにも、つねに周りの人に興味を持つように努め、先に起こりうるリスクを事前に予測することなどを心がけています。仕事以外の面では、後悔は絶対にしたくないので、自分が良いなと思ったことは全部挑戦しています。

## 後輩へのメッセージ

ちょっとでもやりたいと思ったことは全部やる！  
「あの時やっていれば」は作らない！

## 英語コース 若本八千代さん 2期生 東京海上日動火災保険

### 卒業後の GC 学部のメンバーとの繋がり

現在でも繋がっています。とくに同級生とは旅行することもありますし、電話で頻繁に話したりもします。その時は、お互いに仕事の相談をすることが多くあります。大学を卒業してからもこのような関係が続けられるのも GC らしさだと感じています。留学や就活を一緒に乗り越えた友達はとくに繋がりが強いと思います。



### 現在の仕事内容

損害保険会社で営業の仕事をしており、保険の販売店や代理店に会社の保険商品を売ってもらうための営業活動や商談を行うことが多くあります。その他には実際に代理店を増設する計画を立てたりします。入社後に苦労したことの一つは商談を行うために必要なエクセルのスキルが身につけていなかったことです。学生時代にパワーポイントとワードはよく使用すると思いますが、エクセルの使い方も学んでおいたら良かったと思います。

### 社会人になって必要だと思う能力

考える力です。仕事を進める上では何に対しても「何故か」という疑問をもって考えないといけません。振り返ってみると大学生までの自分はいかに目的を考えずに生きてきたのかと実感します。会社では、よく考えて行動することが求められますし、社内の人々に物事を依頼する時はしっかりと考えて目的を説明しないと誰も動いてはくれません。つまりロジカルシンキング（論理的思考）が大事ということですね。

## 社会に出る前に、私たち学生が心がけておくべきこと

日常的に目的を持って行動することです。日頃からよく考えて行動している人は準備もよくできていますが、これは就職後に差が出る一つの要素だと思います。でもたくさん遊ぶことも間違いなく大切です。大学生なので！

### 後輩へのメッセージ

GC学部では一生の財産となる友達と出会えます。しんどい時などGCの友達が頑張っている姿を見るだけで励みになり、いい影響を受けます。勉強も大切ですがGCの友達とたくさん楽しんでください！

## 中国語コース 工藤香織さん 1期生 厚生労働省

### 学部での学びを振り返って得たこと

私は、厚生労働省職員として入省後4年目に入りますが、これまでの社会・援護局での陸軍軍歴調査業務、大臣官房国際課での海外出張ロジ業務を経て、現在、子ども家庭局で児童福祉施設の整備や災害復旧の審査業務等を担っています。私がGC学部での学びから得たものは次の3点です。1点目は海外出張の対応能力、2点目はチャレンジ精神、そして3点目はコミュニケーション能力です。1点目については、法律や経済を専攻して公務員になる人が多い中、自分は語学力を強みとして磨いてきたために得られたものだと思います。海外出張は厚生労働省幹部の随員職員として、ニューヨークの国連総会、上海の健康増進国際会合等、2年間で5回行く機会に恵まれました。2点目のチャレンジ精神は、約1年間の北京大学留学を通じて文武ともにより高いレベルを追い求めてきた結果鍛えることができたと思います。留学中、学習面では、後半に希望して文学部に編入し、課外活動の面では、約1年間現地の剣道部に入り、語学の壁に苦しみつつもなんとか乗り越えた経験が活きています。3点目のコミュニケーション力は、部活・アルバイト等を通して他の人と積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢により高めることができました。例えば体育会航空部や大学説明会、豚カツ屋さんでのアルバイト、多々羅キャンパスでの留学生主催パーティー等への参加など、色々なところに行ってはできるだけ多くの人と交流するようしていました。



### 現在大切にしていること

視野の拡大、知識の増大、大学で専攻した学びの維持の3点です。視野の拡大は、様々な分野が把握できるよう日頃から幅広く情報収集をすることです。公務員は淡々と与えられた業務をこなす仕事と思われがちですが、国際機関、国会議員、地方議会議員、自治体、関係団体、企業等様々な団体と日々やりとりをしています。現在の行政に何が求められているのかを考えるため、日頃のニュースをフォローすることや職場の仲間との意見交換を大切にしています。知識の増大は、自らの業務に関係する制度や法令を勉強することです。行政のあるべき姿は時代とともに変わっ

ていくので、制度等も変えるべきところは変えなければならないと思っています。そのためにはまず必要なことは、自分の業務内容に習熟することです。大学での専攻分野の維持は、まずは中国語能力を維持することです。社会には色々な分野の専攻をしてきた人がいるので、自分が専攻してきたことにさらに磨きをかけることは非常に重要なことだと思います。いわば、自分に更なる付加価値をつけるためのツールとして、中国語の勉強を継続するようにしています。

## 今後の目標

一流の公務員、一流の妻になること（笑）、及び中国語能力をさらに飛躍させることです。一流の公務員、というのは、単に課題や与えられた仕事を行うだけでなく、積極的に様々な慣習や文化を受け入れたり、勉強したりすることで、組織にとって必要とされる人材になるという意味です。私は今年3月に結婚しましたが、夫の地元である秋田県の上奥に帰るたび、都会で育った自分が知らなかったものがたくさんあると感じます。中でも一番印象深いのが「男尊女卑」という考え方です。普段職場や家庭において男女対等な関係を築いていても、夫の地元ではその土地で求められる妻を演じなければいけません。それは、女性は表舞台に立たないという慣習をわきまえながら、裏方に徹するとともに裏方としての仕事を覚えることが求められます。裏方としての仕事ができるようにならないと、地元の人たちには役立たずと思われてしまいますから（笑）。中国語能力の飛躍と書いたのは、今の職場では、中国語が話せると在国日本大使館（北京）へ3年間出向する機会が与えられるからです。中国語を強みとして磨きをかければ、そこへの道が開かれ、2国間連携に関する様々な仕事が行政官の立場でできるようになります。

## 後輩へのメッセージ

2点提案したいことがあります。1点目は、学業のみに全力を注入するのではなく、それ以外のことにも自ら取り組んで視野を広げることです。社会人になる前に、自分のこれまで経験しなかった分野にも手を広げて、たくさん社会勉強をしてもらいたいと思います。2点目に、現状に満足せず積極的に課題を見つけることです。「なぜ？」と思った時はじっくり考えて、自分なりの課題や解決方法を考える力を身につけると、将来の仕事できっと生きてくことと思います。GC 学部の学生は、長期間の海外留学、幅広い分野のゼミ、豊富な部活やサークル等、自らを成長させる数多くの機会に恵まれています。悔いのない生活を送り、新しい世界に堂々と羽ばたいていただきたいと思います。



### 就職活動で苦労したこと

私はまず、企業の説明会に積極的に参加することから始め、ES（エントリーシート）の準備などにも時間をかけました。一番苦労したのは自己分析ですが、それ以前にはしたことがなかったので何から始めたら良いかすら分からず大変でした。しかし、実際にやってみて自分自身のこともよく理解することができ、とても役に立ったと思います。また日本語検定やTOEIC® L&Rなどの資格もたくさん取りました。できれば、日本の自動車免許も取得しておいた方が良いと考えています。

### 就職活動で大事なこと

一番大事なのは、一人で頑張らず、周囲の人の助けも借りることだと思います。大学の先生やキャリアセンターの方々には留学生のための説明会や求人の情報を提供して頂いたり、留学生の強みをPRする方法をアドバイスして頂いたりしました。もし自分一人で活動していたら、留学生を募集していない企業に応募し、時間を無駄にしてしまうような可能性もあります。とくに留学生を採用したいと思っている企業であれば活躍できるチャンスは大きくなると思います。そして、自分の目標を明確にして、その目標に向かって努力し続けることも大切です。目の前の目標を着実にクリアすることを続けていけば、結果として大きな目標に辿り着けると思うので、目標と努力を忘れることなく、仕事に取り組んでいくつもりです。日本に来ることを考えていた時もそうですが、どんな学部に行きたいのか、学校を卒業したら何をしたいのか、そういった将来のことをきちんと考えて、目標を立ててから、日本に来ることが大事だと思いました。そのように目標（夢）を持って、それを実現させる努力を続けることが大切です。

### 京都での留学経験

京都は留学するのに理想的な場所だと思います。勉強する機会を与えてくれるだけでなく、住んでいて楽しいところです。京都には伝統文化もありますが、現代的な部分にも接することができます。素敵な景色、文化やライフスタイルと、京都には何でもあります。

### 後輩へのメッセージ

私は日本に留学して、いろんな国の友達を作ることができました。皆さんも、積極的にいろんな国の友達を作って視野を広げ、これからのグローバルな社会で活躍してください。



## 2018年度卒業研究テーマ

---

### —英語コース—

#### Advanced Seminar 2 ① (担当 松木啓子)

西川まりあ	Okunoshima as A Contested Site
有間つかさ	Staged Authenticity: A Case of Gion
趙 詠玲	A Nostalgic Gaze: A Case of the Udo Island, South Korea
古川いくみ	Tourist Realism: A Case of Ninja Tourism in Japan
泉岡佑奈	Exploring Authentic Uji Tea Experience: The Ethnography of Yamashiro, Kyoto
本山悠大	Tourism in Shunan
西岡桜子	Staging Retro at Arima Onsen
笹田賢太朗	The Influence of SNS on Tourism
佐々木壺成	Tourist Gaze and Travel Guidebooks
笹野美由紀	A Secret of <i>Omotenashi</i> : Host-guest Relationship at Japanese Traditional <i>Ryokan</i>
田中智穂子	On Narrative and Performance of Kyoto Tourism: Popularity of Wearing a Kimono and Yukata
鳥居真希	Strategic Performance to Attract Foreign Tourists: A Case of Beppu Onsen
義原歩実	Performance of Hosts in Gastronomy Tourism: A Case of Awajishima
吉村国朗	Tourism of Singapore: Authenticity and Local Vitalization

#### Advanced Seminar 2 ② (担当 玉井史絵)

金光夏愛	The Representation of Racial Tolerance, Equality and Understanding in the Disney Film, <i>Pocahontas</i>
張 子琪	The Uniqueness of Christopher Nolan's Batman
井上奈々	The Representation of Company and Desired Leadership in <i>Toy Story</i>
岩井咲紀	Communication between the Reader and the Novel in <i>Frankenstein</i>
垣本友理子	The Representation of Childhood in <i>My Neighbor Totoro</i>
數野光紀	The Representation of Girls in Japanese Girls Cartoons
近藤真季	The Representation of Interaction with Others in <i>Guardians of the Galaxy</i>
水口 彰	What Does Disney Want to Tell through <i>Zootopia</i> and Why Was It Successful in 2016?
中上美沙希	The Ideal Marriage of a Victorian Woman In Charlotte Brontë's <i>Jane Eyre</i>
西澤新菜	The Fabrication of Self in Truman Capote's <i>Breakfast at Tiffany's</i>
柴 歩実	The Problem of Maternity in <i>Peter Pan and Wendy</i>
矢加部美優	The Relationship between an Individual and the World in Kanako Nishi's <i>i</i>
山本舞美	The Representation of "Japanese" High School Students in the Movie <i>Orange</i>

Advanced Seminar 2 ③ (担当 吉田優子)

- 福西海斗 How the Kansai Dialect Is Different and Unique Compared to the Tokyo Dialect  
加藤 遥 English Loan Words in Japanese and Their Use in the Japanese Media  
加藤優美 The New York Accent and Social Class: An Analysis of the Changes to Lady Gaga's Accent  
川見将紀 A Phonological Guide to Pronunciation of English Loanwords in Japanese for Japanese Learners  
大江留生 How Social Factors Influenced the Development of the English of New York City  
吉越帆乃香 First Language Acquisition and Bilingual Education  
竹本祐太 The Use of Katakana in Italian Textbooks: Does it Help or Hinder Students' Ability to Acquire Natural Pronunciation  
戸端麻夕 The Influence of a Learner's First Language on Their Acquisition of Japanese: A Comparison of Korean, Chinese, and English Speakers  
富吉純平 An Introduction to Ventriloquism: How to Articulate Labial Consonants

Advanced Seminar 2 ⑤ (担当 竹田宗継)

- 東井みなみ Lookism Created by Cosmetic Industry's Marketing Communication Strategy – Proposal of Rebuilding Women's Sense of Self-esteem –  
長谷川大介 The importance of Design Thinking and Strategy Seen in Apple, Inc. in the Age of Globalization  
林 維倫 A Study on the Effective Way of Conducting Merit-Based Personnel System in Japan Based on Japanese Collectivism  
樋口美優 Contrastive Analysis of Japanese and English Titles of Animated Films: From Cognitive Linguistic Point of View  
梶川真鈴 Effective Approach for Non-face-to-face Communication Found in Air Traffic Control Communication  
岸田真悠子 Japanese Excellent Service Without Tipping Service, Based on Collectivist Culture  
西 宥樹 A Study on Successful Leadership Communication Style – Impact of Praising Followers –  
奥村政也 The Unique Training Program That We Can Learn from the Casts in Tokyo Disney Resort  
扇谷奈々 The Truth of KAMIKAZE – Why They Did Suicide Attacks and What Were They Thinking and Feeling in Their Heart? –  
浦野聖菜 Beyond the Marketing: Significance of Creating Social Good in Japanese Market  
山岸 療 Effective Communication Begins with a Smile – Why First Impressions Really Matter and The Effect of a Smile –

Advanced Seminar 2 ⑥ (担当 窪田光男)

- 鉄羽永梨 What factors affect language choice in a contact situation where Japanese people talk with foreigners?
- 松本涼夏 How culture influences the translation of Japanese and English movies
- 貞方花奈子 Japanese onomatopoeias used in Manzai
- 西村悠里 The effect of childhood English education in Japan
- 中西美里 Japanese young people's attitudes towards the changing of their dialects
- 松原 萌 People's attitude towards, and a comparison of, honorific expressions in Japanese and English
- 松島久美子 The influence of buzzwords among groups of people
- 飯島 淳 Why do you buy her a drink? Current gender roles as observed in night clubs
- 鈴木健斗 The fairness of Esperanto as the international language
- 川勝玲央 Motivations for second foreign language acquisition
- 三村麻奈絵 An analysis of "Hear the Wind Sing?" drawing on historical background
- 小島伶菜 Essential elements to become popular on Instagram
- 富田小百合 Young women's differing usage of emoticons when texting, based on relationship with interactant

Advanced Seminar 2 ⑦ (担当 Bettina GILDENHARD)

- 千葉椋介 How Japanese Society has formed Images of Aum-Shinrikyô – An Analysis based on Editorial Articles –
- 糸川潤 A Chief Tweeter: Trump's Use of Twitter and the Building of his Virtual Community

Advanced Seminar 2 ⑧ (担当 南井正廣)

- 安西 巧 Attractions of Japanese Spas to Foreigners
- 江木颯鳥 History of Iron
- 平松菜穂 Young Japanese People's Consciousness of Japanese Tea
- 岩城 拓 Jeans and Japan
- 金川采樺 The Definition of Herbs
- 川邊展嗣 The Changes of Japanese Food Culture and its Future
- 北澤玲奈 All about Bread: A Unique Culture of Bread in Japan
- 駒場由行 The Influence of Curry on the World
- 横村あおい The Relationship between People and Sugar – Is Sugar Bad for Health? –
- 森 春香 The Influence of Japanese Woodblock Prints on the European Art
- 小栗奈於 The Relationship between Railway and Tourism
- 佐藤航平 Lower Consumption of Beer among Japanese People
- 田上修至 The History and Future on the Internet
- 田添紗希 The Change of Japanese Way of Making-up and Sense of Beauty
- 渡邊智史 Problems of "Commercialized" Football

## －中国語コース－

### 専門演習3 ① (担当 内田尚孝)

- 藤本麻友香 訪日中国人観光客の研究－満足度アップとリピーターの取り込み－  
倉橋李奈 アリババの日本国内ビジネスの研究－越境 EC 事業普及阻害要因とアリペイの展開－
- 松田大輔 1950年代、冷戦下における日中関係の研究－日本と「二つの中国」－  
竹下真優 中国メディアと中国人の対日イメージの変化に関する研究  
藤木美波 中国自動車市場における日系自動車メーカーの戦略に関する研究－世界一の市場で生き残るためには－
- 古川航也 中国における水資源危機の研究  
梶原明奈 孤児問題から見る日中児童福祉政策の現状と課題－施設養護と里親制度の今後－  
笠井理帆 中国人の日本留学に関する研究－日中両政府の留学政策と留学生の動向を中心に－
- 勝谷莉奈 中国における少子高齢化の実態とその対策－フランスの少子化対策を参考に－  
北野衣織 中国都市部における義務教育課程の研究－学力世界一の教育とは－  
久保日向子 メディアと日中関係－日中関係にメディアが及ぼす影響  
工藤綾夏 中国におけるキャッシュレス社会の到来と信用に関する研究－「不信用社会」から「信用社会」への過程－
- 呉 靖雅 中国におけるジェンダーの研究－中国の女性解放運動とモダンガールの出現－  
御崎悠太 習近平政権の外交戦略とその課題－「一帯一路」構想は世界のインフラ需要に応えることができるのか－
- 西田真弥 中朝関係の歴史的研究－北朝鮮を支える中国－  
手島彩花 チベット問題の研究－高度自治・独立を求めるチベットと中国政府の政策－  
富田萌恵 現代中国における自動車産業の研究－クルマ社会の展望－  
植田佳淑 グローバリゼーション下における在日中国人と日中関係  
山田哲平 靖国神社問題をめぐる日中関係の研究－小泉政権時を中心に－  
吉田 亮 中国知的財産発展モデルの研究－国家政策と途上国の経済成長－  
吉村華子 日中戦争をめぐる日中歴史認識問題の研究

### 専門演習3 ② (担当 中西裕樹)

(全員で一冊の本を翻訳：劉一達著『北京話』(中華書局、2017年、全322ページ))

竹島加純、安藤 優、後藤 葵、相澤茉莉子、呉 靖宏、村井春香、永田真夕、中井真理、大槻真友子、田代優衣、山口夏奈、山口美怜、山下万里子

### 専門演習3 ③ (担当 唐顯芸)

- 清水優子 中国共産党の宗教政策について  
河合美南 中国人消費者と日本製品－選ばれる理由－  
池田 郁 『西遊記』を神話物語として捉えた一考察  
高橋湧也 中国サッカーとその改革発展総合プランについて  
桑田万樹 訪日中国人観光客と観光資源としての「奈良のシカ」

専門演習3 ④ (担当 彭広陸)

- |       |   |
|-------|---|
| 正善愛理  | 中国インターネット文化－インターネット規制について－                          |
| 梅田利佳子 | ファッション流行と消費行動から見る日中ファッション比較－上海と東京－                  |
| 房前友里恵 | 航空会社利用に見られる日本人と中国人の違い                               |
| 井上直子  | 中華圏観光客の訪日目的に関する研究                                   |
| 木村文音  | 公衆トイレと言語表現からみる中国トイレ文化－観光地の公衆トイレを例に－                 |
| 鍋島里奈  | 大媽広場舞からみる中国人の公私概念                                   |
| 中村優志  | 中国経済に関する社説に見られる四大紙の違い－朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞の内容分析から－ |
| 田守亜純  | 中国人の姓名の変遷とその背景                                      |
| 姜 泰花  | 日中のオノマトペに関する記述的研究－漫画の翻訳を通して－                        |



## —日本語コース—

特別演習2 ① (担当 脇田里子)

都 受玖 (ド スミン)

日韓のゲームで使用される略語の比較研究

文 寶華 (ムン ホウカ)

すぐ謝る日本人となかなか謝らない中国人

特別演習2 ② (担当 須藤潤)

タン エケン 中国語を母語とする日本語学習者の終助詞「よ」「ね」のイントネーションの傾向 - 日本語母語話者との比較 -

特別演習2 ③ (担当 鈴木伸子)

千 藝珍 (チョン イェジン)

日韓におけるセクシュアル・ハラスメント及び性暴力問題の比較

李 俊珩 (イ ジュンヒョン)

財閥企業のパワハラ

## 編集後記

2019年は平成が終わり、新しい時代を迎えます。バブル経済崩壊後の日本は、少子高齢化や「失われた20年」と呼ばれる経済の長期低迷など、前例のない重大な困難に直面しています。世界的に見ても、“Brexit”やトランプ氏の大統領当選、南北首脳会談など予想外の出来事が次々と起きています。そんな予測不能な未来を担っていく私たちに必要な力は何でしょうか。それは、先入観に囚われず物事を複数の視点から分析する力、価値観の異なる人と分かり合える寛容さ、自分から発信・働きかける主体性だと私たちは考えます。これらを学び実践できる環境がGC学部にはあります。

GC学部の強みでもある留学やゼミ、そして3コース合同のSeminar Projectをはじめ、幅広い国際教養科目を通して得た知識と経験を活かし、常に好奇心を持って新しいことに挑戦しながら多方面で活躍するグローバル人材として私たちは羽ばたいていきます。

*Cosmos*の編集活動を通して、GC学部の繋がりの強さ、そして先生方や学生のGC学部への思いを再認識することができました。GC学部での学生生活は十人十色です。それぞれの学生が自分自身の学生生活を創り上げています。時には意見をぶつけ合い、時には助け合える仲間や先生がGC学部にはいます。GC学部生であることを誇りに思うと同時に、ここでの学びや出会いを胸に、これからも多方面で活躍するグローバル人材として活躍していきます。至らぬところもありましたが、多くの方々のサポートがあり無事に編集活動を終える事ができました。本誌を通してGC学部の魅力を感じていただけたのであればとても幸せです。留学やSeminar Projectの活動など、本学部ホームページにも詳しい情報が載っておりますので是非ご覧下さい (<https://globalcommunications.doshisha.ac.jp>)。第8号を手にとっていただき、本当にありがとうございました。

英語コース3年生 竹本 名歩

### 2018年度 *Cosmos* 編集委員会

英語コース	4年生	岩井 咲妃、山本 舞美
	3年生	石黒 莉奈、今村 日和、岡部 和也 ジェームズ、堺 遼哉、竹本 名歩
	1年生	大上 次史、鈴木 華野、瀧本 怜佳、溝上 瑛世
中国語コース	3年生	市橋 侑里、小西 真愛
	2年生	柴田 奈緒、高橋 菜央
	1年生	中西 紗唯
日本語コース	3年生	孫 華、趙 逸倫、張 海辰

### グローバル・コミュニケーション学会

#### 運営編集委員会・役員会

南井 正廣、寺西 隆弘、Peter Neff、唐 顥芸、鈴木 伸子、Bettina GILDENHARD、中田 賀之

## *Cosmos* 第8号

2019年3月15日発行

発行 同志社大学グローバル・コミュニケーション学会  
〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3  
同志社大学グローバル・コミュニケーション学部内  
Tel (0774) 65-7491 Fax (0774) 65-7069

編集 2018年度 *Cosmos* 編集委員会  
グローバル・コミュニケーション学会 運営編集委員会

印刷 株式会社あおぞら印刷  
〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15

